

X = 4377.528

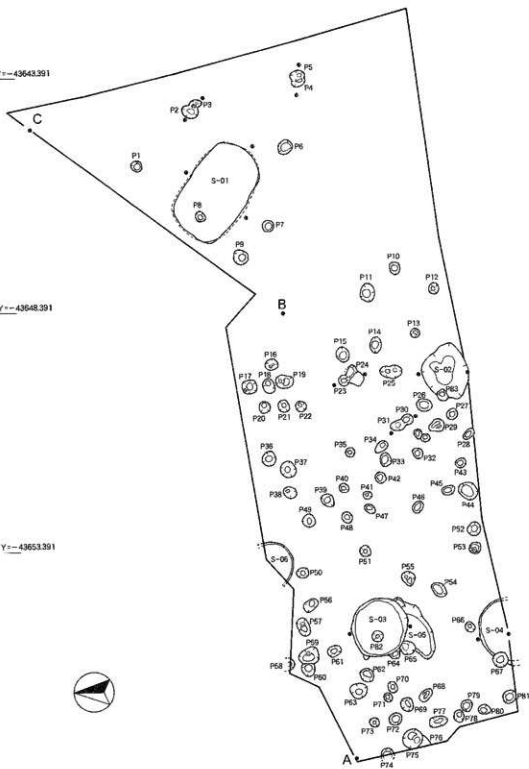
X = 4377.528

Y = 43643.391

Y = 43648.391

Y = 43653.391

Y = 43658.391



第87圖 塚原遺跡工事立会範圍遺構配置圖 S=1/80

①層位

確認した土層の詳細は以下のとおりである。

I層 現代の耕作土。砕石及び磁器等の現代遺物を含む。(試掘時I層)

IIa層 灰褐色土 (7.5YR4/2)

ややしまりがあり、粘性を有しない。砂粒及び1~5cm大の礫を多量に含む。一部で砂質が強くわずかに土器小片や炭化物を含む。開田時の客土と思われる。(試掘時II層)

IIb層 黒褐色土 (7.5YR3/2)

ややしまりがあり、粘性を有しない。調査地西側で確認。III層より明るく、礫・砂・土器小片を多量に含む。

III層 黒褐色土 (7.5YR2/2)

しまりがあり、わずかに粘性を有する。礫・砂粒・土器小片を多く含む。一部に土器片集中箇所が見られる。(試掘時III層)

IV層 暗褐色土 (10YR2/3)

ややしまりがあり、わずかに粘性を有する。礫・砂粒・土器細片をわずかに含む。

V層 暗褐色土 (7.5YR3/3)

しまりがあり、粘性を有する。砂粒・炭化物をわずかに含む。弥生時代後期の遺物包含層。(試掘時IV層)

VI層 暗褐色土 (7.5YR3/3)

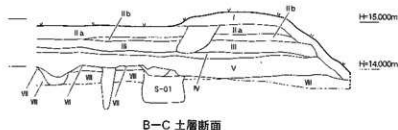
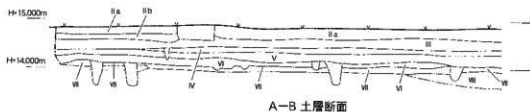
しまりがあり、粘性を有する。弥生時代(中期か)の遺物包含層で炭化物をV層より若干多く含む。調査地東側に向かい薄くなり、東端部には所在しない。上面が弥生時代(後期か)の遺構検出面。(試掘時IV層)

VII層 褐色土 (7.5YR4/3)

やや強いしまりがあり、粘性を有する。無遺物層で、砂粒・礫をまばらに含む。調査地東端部には所在しない。上面が弥生時代(中期か)の遺構検出面。(試掘時V層)

VIII層 褐色土 (7.5YR4/4)

しまり・粘性ともにやや強い。ローム質の土層で、数cm~拳大の礫及び砂粒を多く含む。無遺物層。



第88図 塚原遺跡工事立会範囲土層図

②遺構及び遺物 (弥生時代中・後期)

・遺構

S-01

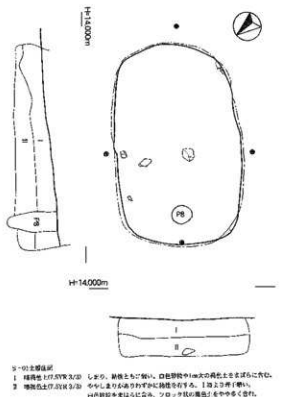
立会箇所北東部に検出した。重機により削平を受けていたため遺構上部の形状は不明である。北側の土層断面から検出面はⅦ層と考えられる。楕円形を呈する袋状の土坑で、残存部の長径2.12m、短径1.36m、深さ0.43mを測る。小片が多く明確ではないが、弥生時代中期のものと思われる土器片を確認した。P5により切られる。

S-02

立会箇所南側中央部に検出した。検出面はⅦ層である。楕円形を呈する土坑で、長径1.22m、短径0.98m、深さ0.24mを測る。土器小片少量と石器(敲石、石礫未製品、剥片)が出土している。土器小片は、弥生時代中～後期、石器は縄文及び弥生期のものと考えられるが、すべて上層部での出土である。

S-03

立会箇所西側中央部に検出した。検出面はⅦ層である。ほぼ円形を呈する土坑で、直径1.23mを測る。遺物は、少量の土器細片及び縄文期のものと思われる石器1点を確認したが、どちらも上層部での出土である。S-05、P64・65・82を切っている。



第89図 塚原遺跡S-01実測図



第90図 塚原遺跡S-02実測図



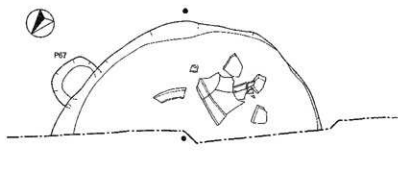
第91図 塚原遺跡S-03・05実測図

S-04

立会箇所南西部で検出した。検出面はⅦ層である。遺構が立会箇所外におよんでいるが、ほぼ円形を呈すると思われる土坑で、確認部の最大径1.44m、深さ0.55mを測る。弥生時代中期のものと思われる土器片（甕・壺等）及び石器1点（磨石・敲石）を含む。P67により切られる。

S-05

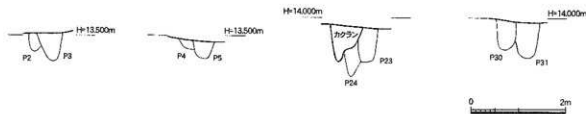
S-03 南側で検出した。検出面はⅦ層である。S-03及びP65により切られているが、残存部から扁平な楕円形を呈する土坑と思われる。遺物は確認されていない。



S-04土層注記

- I 黒褐色土(7.5YR 3/2) しまり、粘性ともに強い。1m大の褐色土をまばらに含む。
- II 赤褐色土(7.5YR 3/2) ややしまりがありわずかに粘性を有する。1m大の黒・褐色土を少量含む。田十遺物の多くはこの層に含まれる。
- III 暗褐色土(7.5YR 3/2) ややしまりがありわずかに粘性を有する。1m大の赤・褐色土を多少含む。
- IV 暗褐色土(7.5YR 3/2) ややしまりがありわずかに粘性を有する。ブロック状の褐色土を中々多く含む。
- V 暗褐色土(7.5YR 3/2) ややしまりがありわずかに粘性を有する。ブロック状の褐色土を少量含む。

第92図 塚原遺跡S-04実測図



ビット上層P2記

- P2 黒褐色土(7.5YR 3/2) しまり、粘性ともに強い。褐色土・黒を少量含む。上部小片をやや多く含む。P3を切る。
- P3 黒褐色土(7.5YR 3/2) しまり、粘性ともに強い。褐色土・黒をまばらに含む。木炭片をやや多く含む。P2により切られる。
- P4 褐色土(7.5YR 4/4) しまりがなくやや強い粘性を有する。ブロック状の黒褐色土(7.5YR 3/2)を多量に。砂粒をまばらに含む。遺物と上層層の黒土土が、P5により切られる。
- P5 黒褐色土(7.5YR 3/2) ややしまりがあり粘性を有する。褐色土をわずかに。土層小片を多く含む。
- P23 黒褐色土(7.5YR 3/2) しまりがありわずかに粘性を有する。1m大の褐色土・白色砂粒を微量含む。P24を切り、壁層により底面を受ける。
- P24 黒褐色土(7.5YR 3/2) しまりがありわずかに粘性を有する。1m大の褐色土を少量含む。P23により切られる。
- P30 黒褐色土(7.5YR 3/2) ややしまりがあり粘性を有する。白色砂粒をまばらに含む。
- P31 黒褐色土(7.5YR 3/2) しまり、粘性ともに強い。褐色土をわずかに含む。

第93図 塚原遺跡ビット土層図

S-06

立会箇所北西部で検出した。検出面はⅦ層である。遺構が立会箇所外におよんでいるが、ほぼ円形を呈する土坑と思われる。遺物は確認されていない。

P1~83

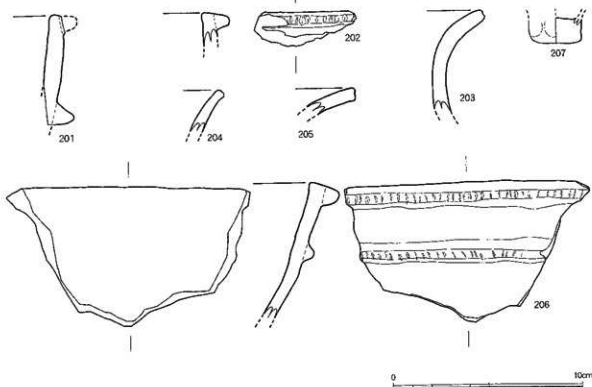
ビットは計83基を検出した。検出面はⅥ層及びⅦ層であるが、Ⅵ層での検出が困難であったためすべてⅦ層での検出となった。調査範囲が狭小であることもあり、掘立柱建物跡等は確認されていない。一部の切り合い関係にあるものについて、断面図と上層注記を掲載する。

・遺物

遺物は包含層及び遺構内より出土している。大半が弥生時代中～後期の土器であるが、縄文時代のもと思われる石器も出土している。

S-01出土遺物 (第94図)

弥生時代中期のもと思われる土器である。内容は、甕(201・202)、壺(203～205)、鉢(206)、ミニチュア土器(207)である。



第94図 塚原遺跡S-01出土遺物実測図

S-02出土遺物 (第95・96図)

縄文時代のもと思われる石鏃(208～211)及び弥生時代のもと思われる磨石・蔽石(212)で、石材は黒曜石及び安山岩である。

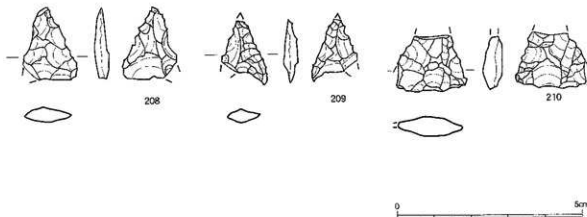
S-03出土遺物 (第97図)

縄文時代のもと思われるスクレイパー

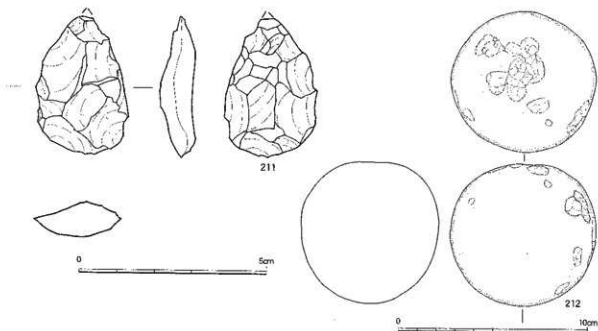
(212)で、石材は安山岩である。

S-04出土遺物 (第98・99図)

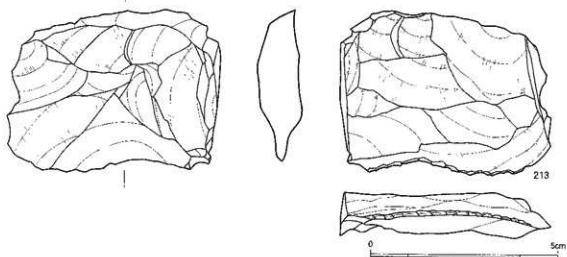
弥生時代中期のもと思われる土器及び石器である。内容は前者が壺(214・215)及び鉢(216)、後者が安山岩製の磨石・蔽石(217)である。



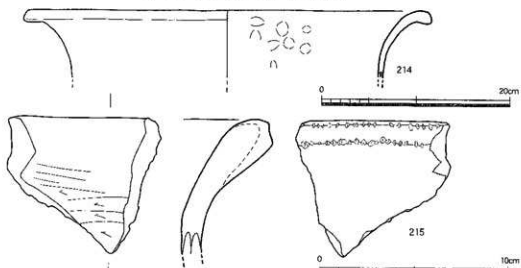
第95図 塚原遺跡S-02出土遺物実測図1



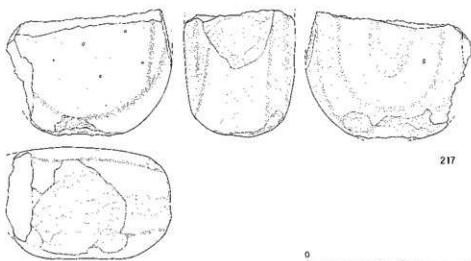
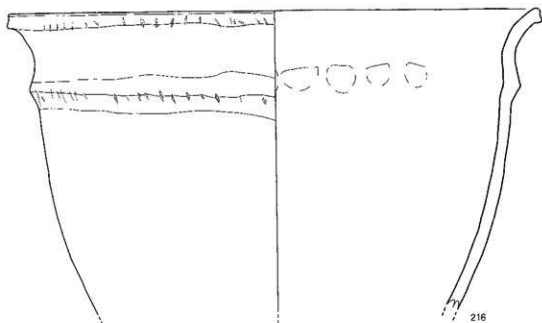
第96図 塚原遺跡S-02出土遺物実測図2



第97図 塚原遺跡S-03出土遺物実測図



第98図 塚原遺跡S-04出土遺物実測図1



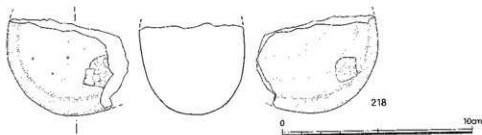
第99図 塚原遺跡S-04出土遺物実測図2

P2出土遺物 (第100図218)

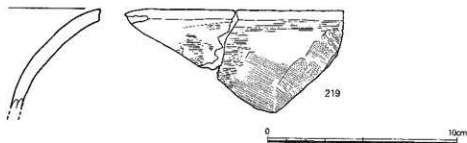
弥生時代中～後期のものと思われる磨石・
 蔽石で、石材は安山岩である。

P8出土遺物 (第101図219)

弥生時代中～後期のものと思われる壺の口縁
 部である。



第100図 塚原遺跡P2出土遺物実測図



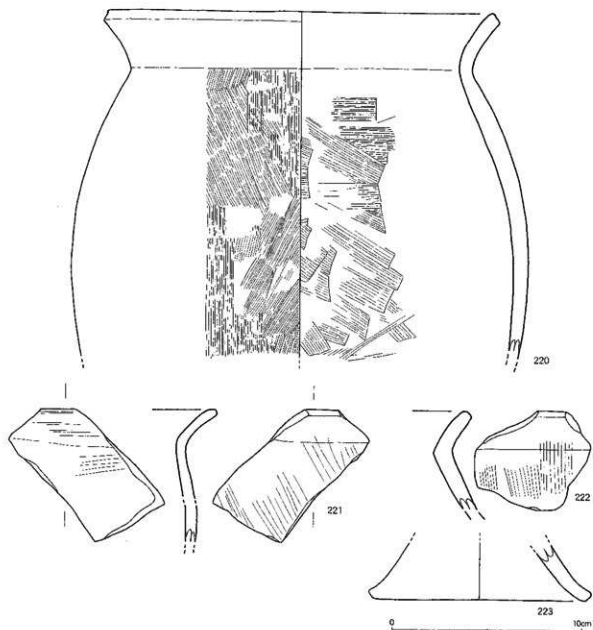
第101図 塚原遺跡P8出土遺物実測図

P9出土遺物 (第102・103図)

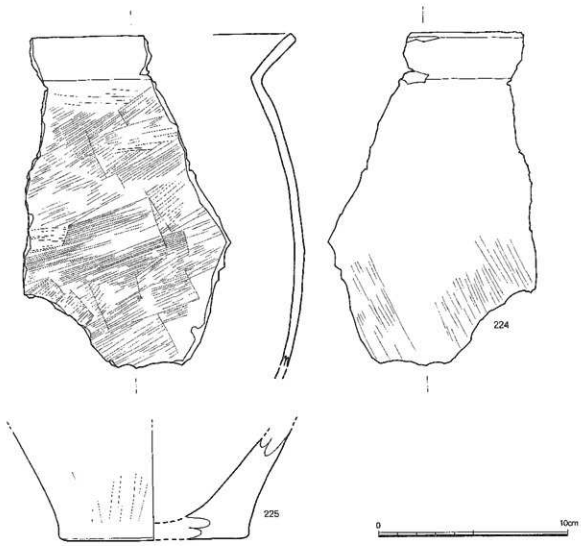
弥生時代後期のもと思われる土器で、内容は裏 (220~224) 及び壺 (225) である。

P19出土遺物 (第104図)

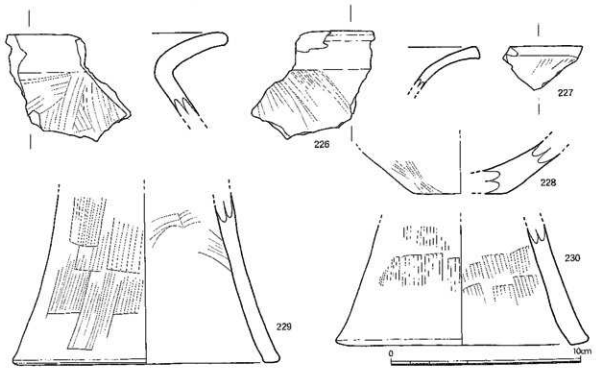
弥生時代中~後期の土器で、内容は裏 (226)、壺 (227・228)、器台 (229・230) である。



第102図 塚原遺跡P9出土遺物実測図1



第103圖 塚原遺跡P9出土遺物実測圖2



第104圖 塚原遺跡P19出土遺物実測圖

P22出土遺物 (第105図231)

弥生時代後期の甕口縁部である。

P28出土遺物 (第106図232)

黒曜石製の石器で細石刃の一部と思われる。

P49出土遺物 (第107図)

弥生時代後期のものと思われる土器で、内容は甕 (233) 及び壺 (234) である。

P60出土遺物 (第108図235)

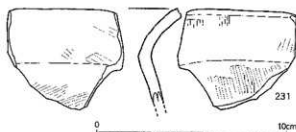
弥生時代後期の高坏脚部と思われる。円形の透かしが一部残存している。

P61出土遺物 (第109図236)

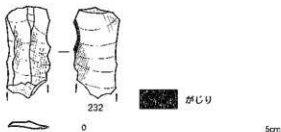
弥生時代後期の甕口縁部と思われる。

P62出土遺物 (第109図237・238)

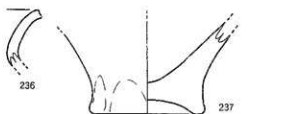
弥生時代中～後期のものと思われる土器で、内容は甕 (237) 及び高坏 (238) である。



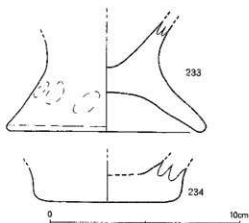
第105図 塚原遺跡P22出土遺物実測図



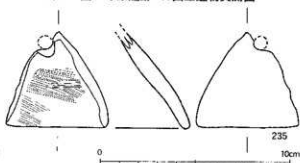
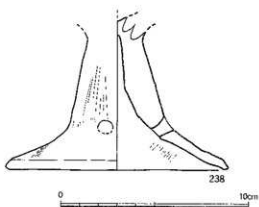
第106図 塚原遺跡P28出土遺物実測図



第109図 塚原遺跡P61・62出土遺物実測図



第107図 塚原遺跡P49出土遺物実測図



第108図 塚原遺跡P60出土遺物実測図

P63出土遺物 (第110図)

弥生時代後期のものと思われる土器で、内容は甕 (239～242)、高坏 (243)、鉢 (244)、器台 (245・246) である。

P67出土遺物 (第111図247)

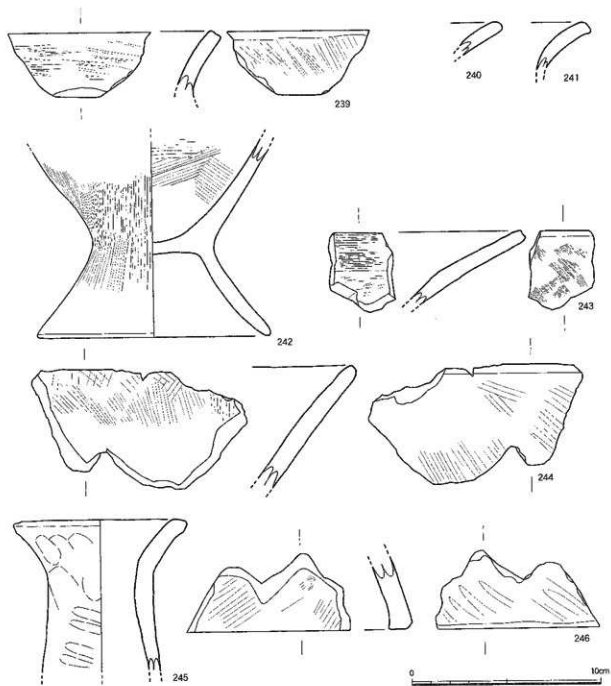
弥生時代中～後期の甕口縁部と思われる。

P75出土遺物 (第111図248・249)

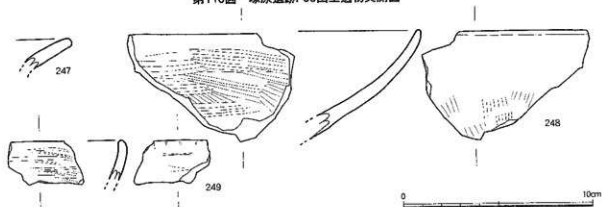
弥生時代中～後期の土器で、内容は高坏 (248) 及び鉢 (249) と思われる。

包含層内出土遺物 (第112図)

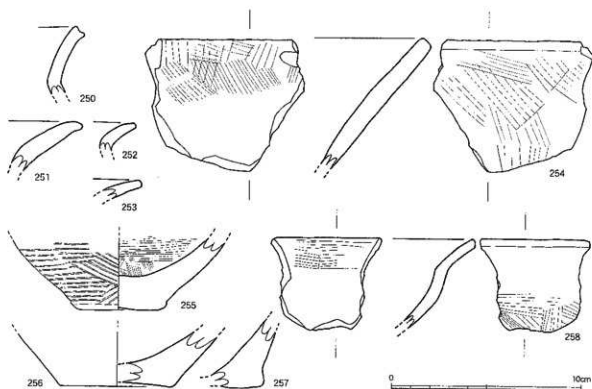
弥生時代中～後期の土器で、内容は甕 (250)、壺 (251～257)、鉢 (258) である。



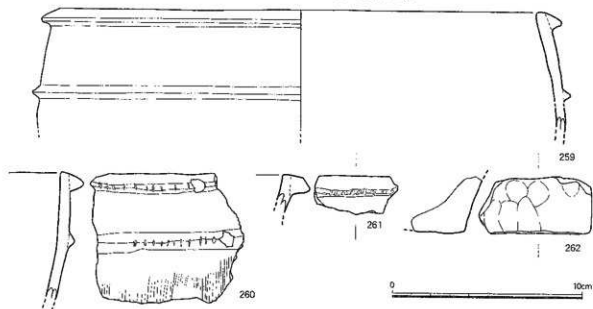
第110圖 塚原遺跡P63出土遺物実測圖



第111圖 塚原遺跡P67・75出土遺物実測圖



第112図 塚原遺跡包含層出土遺物実測図



第113図 塚原遺跡2T出土遺物実測図

確認調査2T出土遺物 (第113図)

弥生時代中期の土器で、内容は甕 (259～261) 及び壺 (262) である。

③まとめ

当該地はこれまで周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、今回の試掘調査・工事立会により、弥生時代中期～後期にかけての遺構・遺物が確認され、当該地西側に所在する塚原

遺跡が東側に拡がるのが判明した。しかし、ビット密度の高さから他時期 (古代・中世) の遺構が混在している可能性も考えられる。当該地西側での市道建設に伴う試掘・確認調査 (参照) において、弥生時代中期～後期の遺構・遺物に加えて、古代もしくは中世期のものであろう遺構・遺物が確認されていることからその可能性は高いものと考えられる。



写真138 塚原遺跡工事立会部遺構検出状況

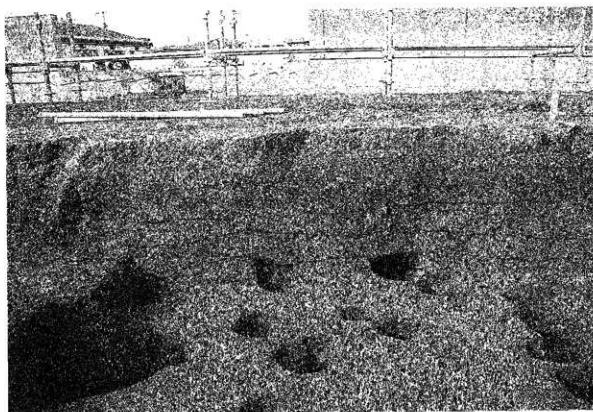


写真139 塚原遺跡工事立会部土層断面 (A-B)

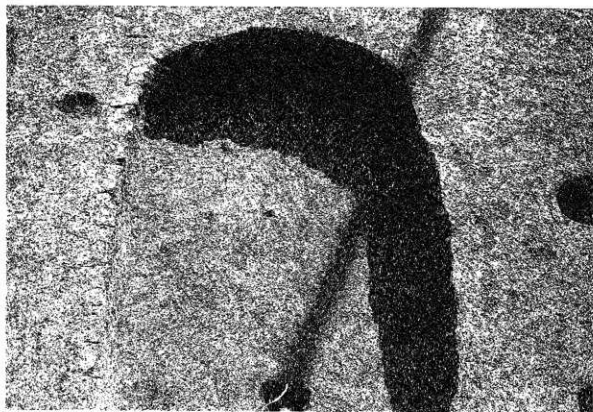


写真140 塚原遺跡S-01完掘状況



写真141 塚原遺跡S-02完掘状況

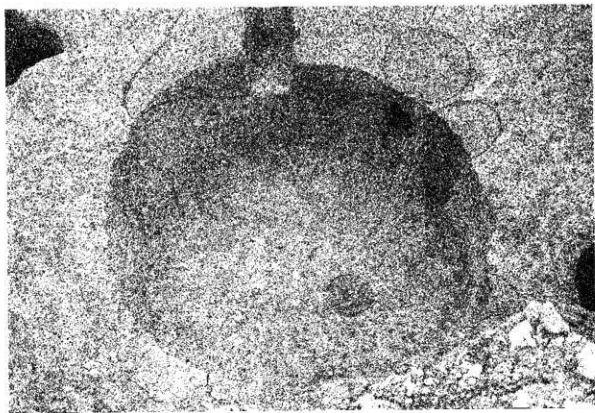


写真142 塚原遺跡S-03完掘状況



写真143 塚原遺跡S-04遺物出土状況

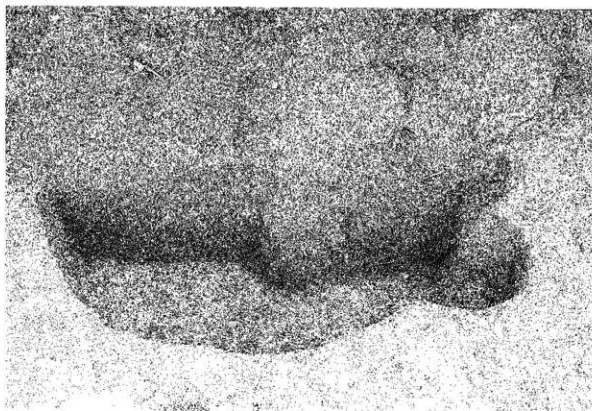


写真144 塚原遺跡S-04完掘状況



写真145 塚原遺跡完掘状況（東→西）

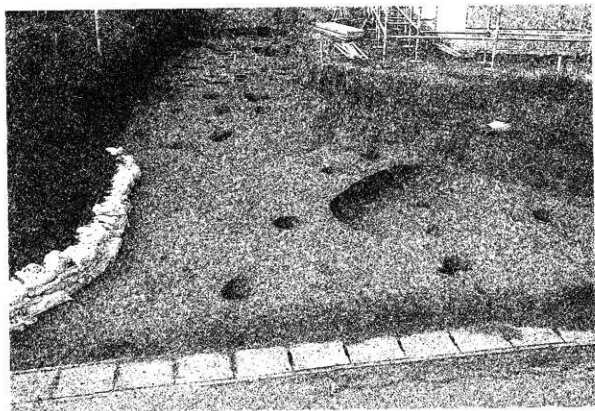


写真146 塚原遺跡完盛状況（西→東）

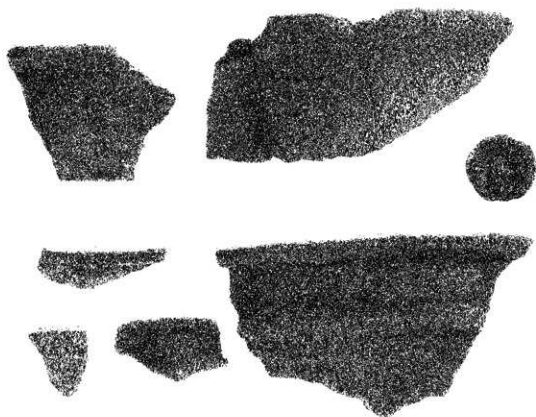


写真147 塚原遺跡S-01出土遺物

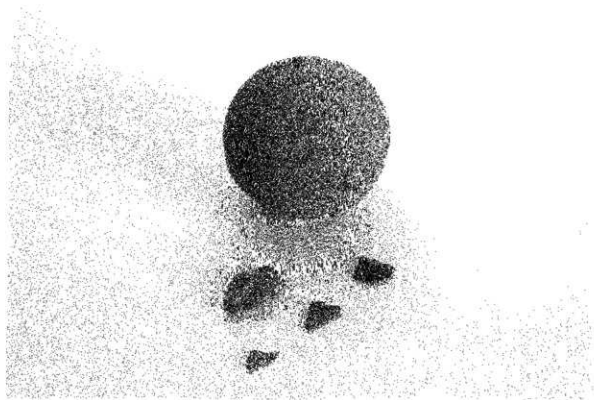


写真148 塚原遺跡S-02出土遺物

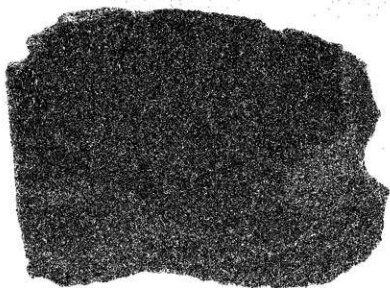


写真149 塚原遺跡S-03出土遺物

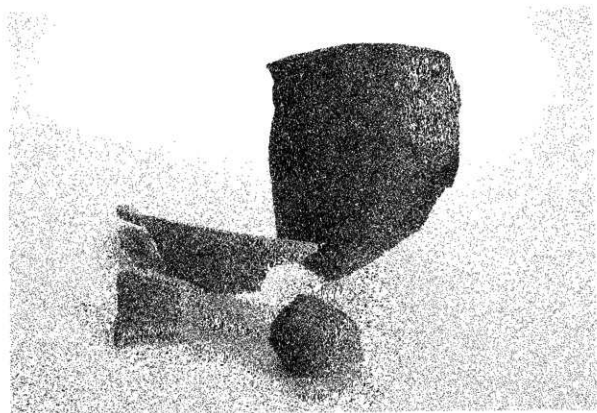


写真150 塚原遺跡S-04出土遺物

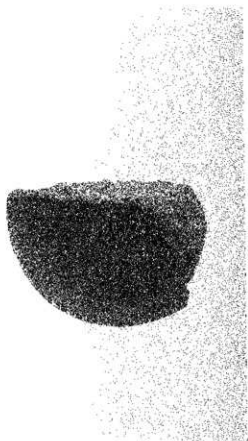


写真151 塚原遺跡P2出土遺物



写真152 塚原遺跡P8出土遺物

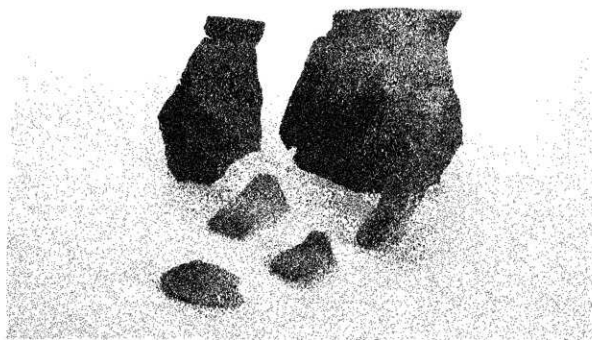


写真153 塚原遺跡P9出土遺物

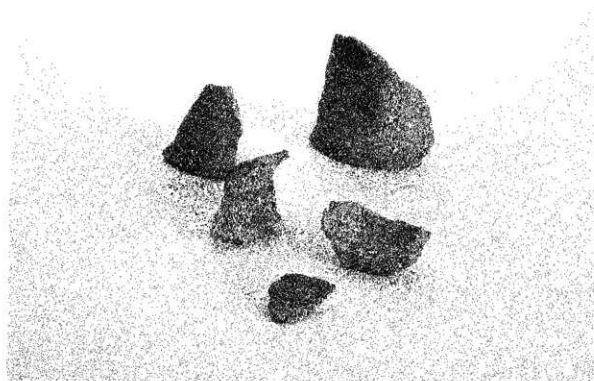


写真154 塚原遺跡P19出土遺物



写真155 塚原遺跡P22出土遺物



写真156 塚原遺跡P28出土遺物



写真157 塚原遺跡P49出土遺物



写真158 塚原遺跡P60出土遺物



写真159 塚原遺跡P61出土遺物



写真160 塚原遺跡P62出土遺物



写真161 塚原遺跡P67出土遺物



写真162 塚原遺跡P75出土遺物

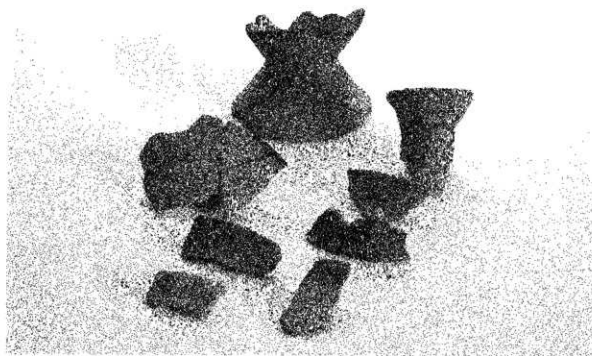


写真163 塚原遺跡P63出土遺物

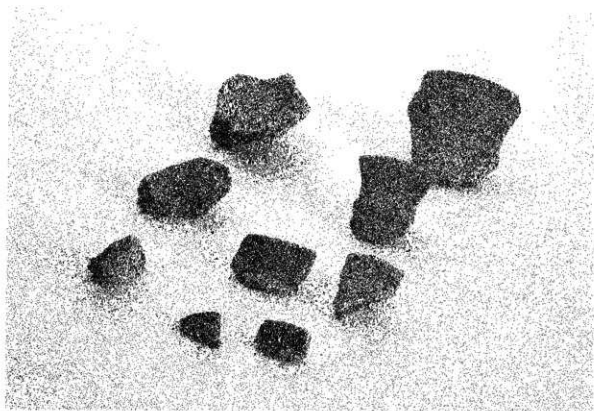


写真164 塚原遺跡包含層出土遺物

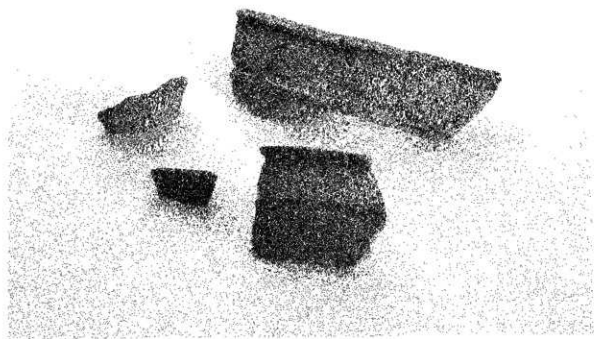


写真165 塚原遺跡2T出土遺物

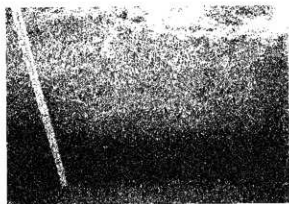


写真166 塚原遺跡1T土層断面

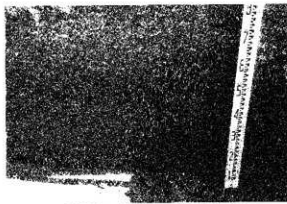


写真167 塚原遺跡2T土層断面

1 2 岩崎原遺跡B地点

所在地：岩崎 687-12

調査原因：専用住宅建設

調査種別：確認調査

対象面積：297.63 m²

調査期間：平成 21 年 12 月 25 日

担当者：田中康雄

調査地は、繁根木川右岸の台地内に所在する小谷部に面した台地裾部に位置する標高 14.7m 程の地点である。調査時は旧建物解体後の宅地であった。

施工内容は専用住宅の新築であるが、地盤の状況次第で杭打ち等を行うことから確認調査を実施した。

調査では、敷地内に 2 箇所のトレンチを設定した。1 トレンチでは、客土 (I 層) 下に遺構面相当層 (II・III 層) 及びその下に礫を多量に含む層 (V・VI・VII 層) を確認したが、遺構・遺物ともに確認されなかった。また、2 トレンチでは、II・III 層は存在せず、I 層下に V・VI・VII 層を確認した。これらの結果から、調査地は小谷部南側に面した台地からの傾斜地を切土により造成したものと想定され、埋蔵文化財は残存していないと考えられる。

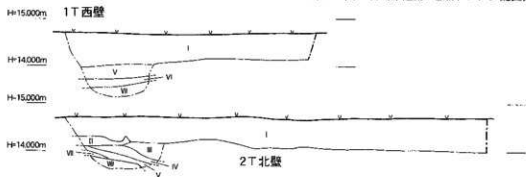
調査後の措置は慎重工事となった。



第114図 岩崎原遺跡B地点位置図 S=1/5,000



第115図 岩崎原遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



土層記号

I 表土 宅地造成時の客土

II 表土下1.0m以内 土中に散在し、礫を多量に含む層、埋蔵物なし、遺物も少ない

III 表土下1.0m以内 土中に散在し、礫を多量に含む層、埋蔵物なし、遺物も少ない

IV 表土下1.0m以内 土中に散在し、礫を多量に含む層、埋蔵物なし、遺物も少ない

V 埋蔵物下1.0m以内 土中に散在し、礫を多量に含む層、埋蔵物あり、遺物も少ない

VI 表土下1.0m以内 土中に散在し、礫を多量に含む層、埋蔵物あり、遺物も少ない

VII 埋蔵物下1.0m以内 土中に散在し、礫を多量に含む層、埋蔵物あり、遺物も少ない

Ⅷ 土中に散在し、礫を多量に含む層、埋蔵物あり、遺物も少ない

0 4m

第116図 岩崎原遺跡B地点土層図

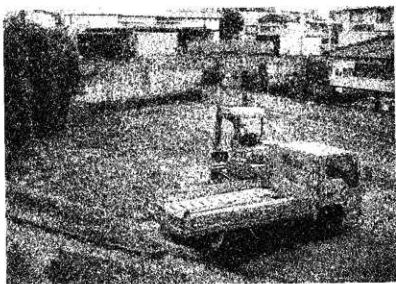


写真168 岩崎原遺跡B地点全景

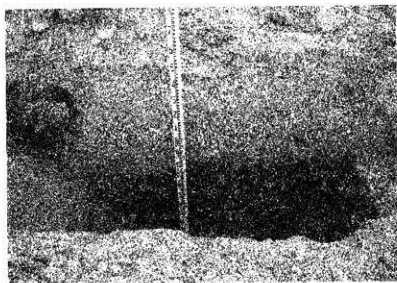


写真169 岩崎原遺跡B地点1T土層断面

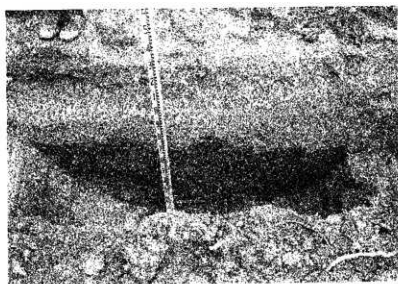


写真170 岩崎原遺跡B地点2T土層断面

13 末広開堤防跡隣接地

所在地：大浜町大栄5428 横島町共栄240

調査原因：河川浚渫

調査種別：試掘調査

対象面積：4,200㎡

調査期間：平成22年1月28日

担当者：末永 崇

当該地は、菊池川河口域左岸の干拓地である末広開と明丑開の境を流れる明辰川の河川内にあたる。河川改修事業及び河川浚渫が計画されたが、重要文化財「有明海旧干拓施設群」（調査時は県指定）の末広開堤防・明丑開堤防及び末広開樋門に隣接することから、事前に試掘調査を実施した。

調査では、末広開堤防側（1トレンチ）、末広開樋門前面（2トレンチ）、明丑開堤防側（3トレンチ）の3箇所にてトレンチを設定した。

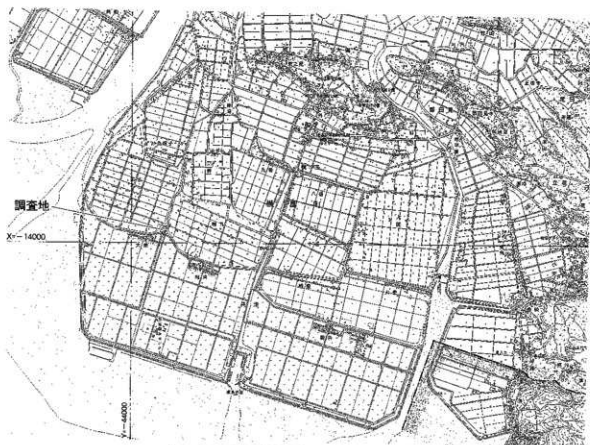
1トレンチでは、末広開堤防の最下部を確

認した。石積5段分が埋没しており、最下層では捨石が確認された。捨石の範囲は堤防最下段の石積以下1mほどで、Ⅲ層中で確認した。石積の下4段分は目地が埋められていないことから空積とみられる。最下段の石積下から刷木が確認された。捨石上に設置されたと考えられる。

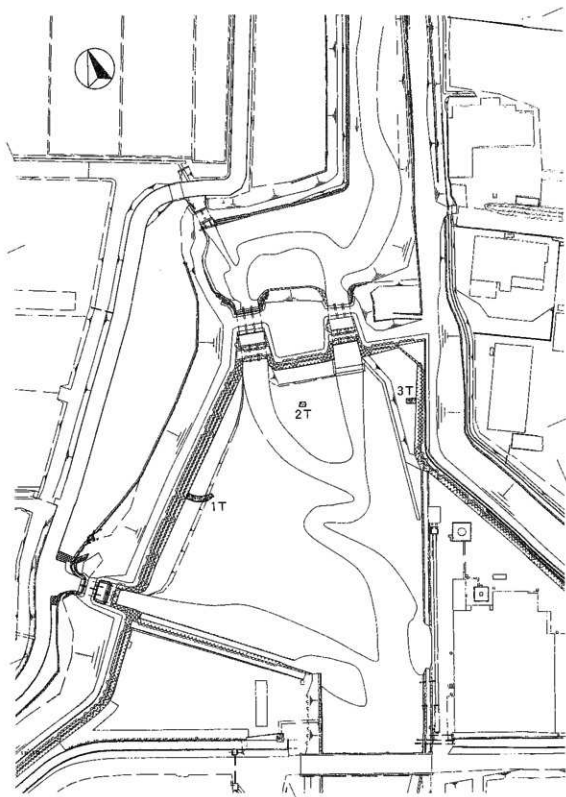
2トレンチでは、深さ1mほど掘削したが、埋蔵文化財等は確認されなかった。

3トレンチでは、明丑開堤防の石積5段分が確認された。その下は木片とモルタルが埋め込まれた非常に硬くしまる層であった。土壌が還元していないことから、水没はしていなかったと思われる。

調査の結果、堤防下部の埋没した石積及び基礎部分を確認したが、河川の改修及び浚渫箇所にてまで及んでいないことから、施工が及ぼす影響はないものと判断した。



第117図 末広開堤防隣接地位置図 S=1/50,000



第118図 末広開堤防隣接地トレンチ配置図 S=1/1,000

14 鬼除山千人塚

所在地：岱明町扇崎字鬼除927

調査原因：文化財標柱・説明板設置

調査種別：確認調査

対象面積：1,019㎡

調査期間：平成22年2月23日

担当者：荒木隆宏

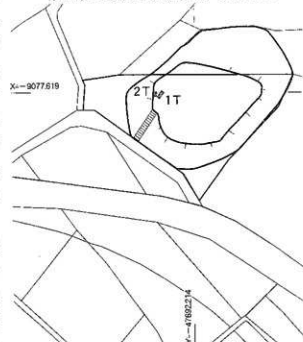
調査地は、行末川左岸の丘陵突端部に所在する。標高は約10mで、周囲より4m程高い円墳状を呈し、熊本県遺跡地図（以下県遺跡地図）に「鬼除山千人塚」（以下千人塚）、岱明町遺跡地図に「扇崎千人塚」として記載されている。「扇崎千人塚」は、旧岱明町指定史跡であるが、上部は近世～現代の墓地であり、現在その中に所在する肥後藩建立の供養塔が玉名市指定重要文化財となっている。尚、県遺跡地図では、千人塚と重複して「千人塚古墳」としても記載されているが、地元古老によると、昭和30年代に千人塚東側を切り下げ畑地化したため、東から延びる丘陵突端部が分離し円墳状を呈するようになったとのことで、古墳の可能性は低いと考えられる。

調査では、供養塔の標柱及び説明板設置部に2箇所のトレンチを設定した。1トレンチでは、現表土の砂層（Ⅰ層）下にⅡ・Ⅲ層を確認した。Ⅰ層中では、基礎石或いは区画石とみられる凝灰岩切石が確認されたが、埋土及び出土状況から近代以降に不要石材を人為的に埋めたものと想定される。Ⅱ層は、厚さ10cm程の粘質土で近世以前の旧表土と考えられる。Ⅲ層は、石英等の砂粒・細礫を含む粘質土で基盤層と思われる。2トレンチも1トレンチと同様の土層堆積状況であった。

調査の結果、部分的に凝灰岩の切石が確認されたが、それらに影響を与えない位置で標柱・説明板を設置することから、調査後の措置は慎重工事となった。



第120図 鬼除山千人塚位置図 S=1/5,000



第121図 鬼除山千人塚トレンチ配置図 S=1/1,000

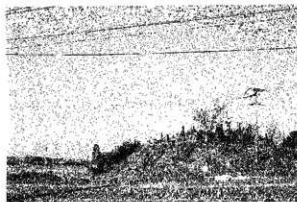
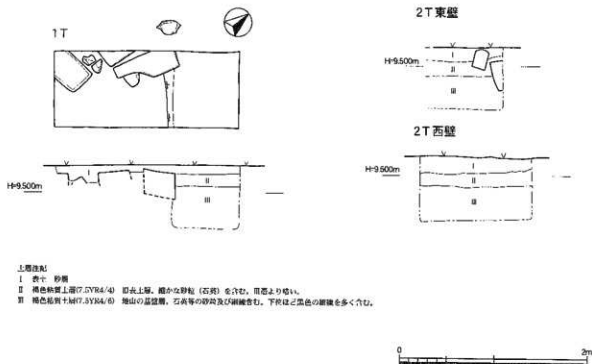


写真177 鬼除山千人塚全景



第122図 鬼除山千人塚1・2T平面図・土層図



写真178 鬼除山千人塚1T土層断面



写真179 鬼除山千人塚1T石材検出状況



写真180 鬼除山千人塚2T全景



写真181 鬼除山千人塚2T土層断面

16 宮原土井の内遺跡

所在地：宮原字屋敷 743 他 7 筆

調査原因：農地造成

調査種別：確認調査

対象面積：3,617.47 ㎡

調査期間：平成 22 年 3 月 29 日～ 31 日

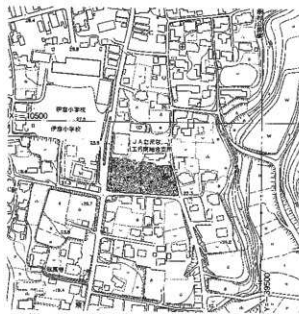
担当者：蟹父雅史

調査地は、菊池川左岸に面した伊倉丘陵性台地南西部の標高 26m 程の地点である。東西 2 面の旧蜜柑畑であるが、調査地中央部で段差を有しており、東側が西側より 1m 程低くなっている。調査地南側隣接地には、中世城館跡とされる中ん城遺跡が所在しており、平成 10 年度以降複数回の発掘調査が実施されている。これまでの発掘調査では、主に中世期の遺構・遺物が確認されている。

今回の調査では、調査地内に 3 箇所のトレンチを設定したが、その内 1・2 トレンチにおいて、中世期の遺構・遺物を多量に確認した。内容は、遺構が土坑・溝状遺構・ピット等で

あり、遺物は 13～14 世紀にかけての青磁片（碗・皿）及び土師器（坏・皿）である。

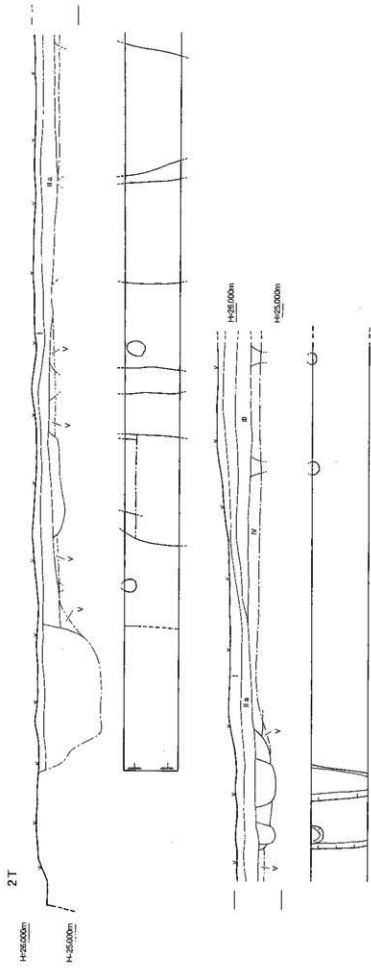
調査の結果埋蔵文化財が確認されたため施主側と協議を行い、施工内容がそれらに影響を及ぼすと判断されたため、着工前に発掘調査を行うこととなった。



第126図 宮原土井の内遺跡位置図 S=1/5,000



第127図 宮原土井の内遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



3T

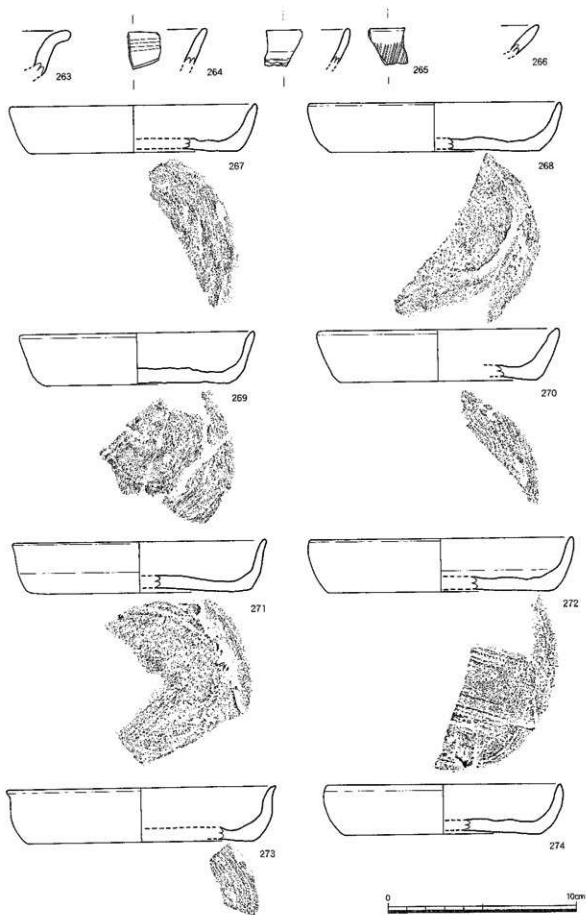


土層目録

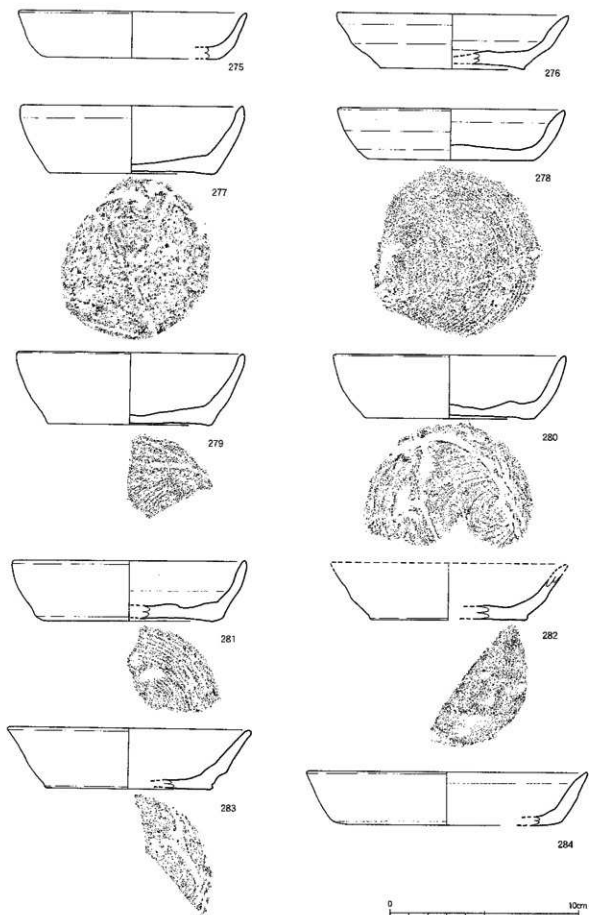
- I 埋設管(中心径φ1,500) 赤土、土層が厚く、軟弱な土質を示す。
- II-a 埋設管上の土層(φ1,500) 土層が厚く、赤土、土層が厚く、軟弱な土質を示す。
- II-b 埋設管下の土層(φ1,500) 赤土、土層が厚く、軟弱な土質を示す。
- III 埋設管の土層(φ1,500) 赤土、土層が厚く、軟弱な土質を示す。
- IV 埋設管の土層(φ1,500) 赤土、土層が厚く、軟弱な土質を示す。
- V 埋設管(中心径φ1,500) 土層が厚く、軟弱な土質を示す。



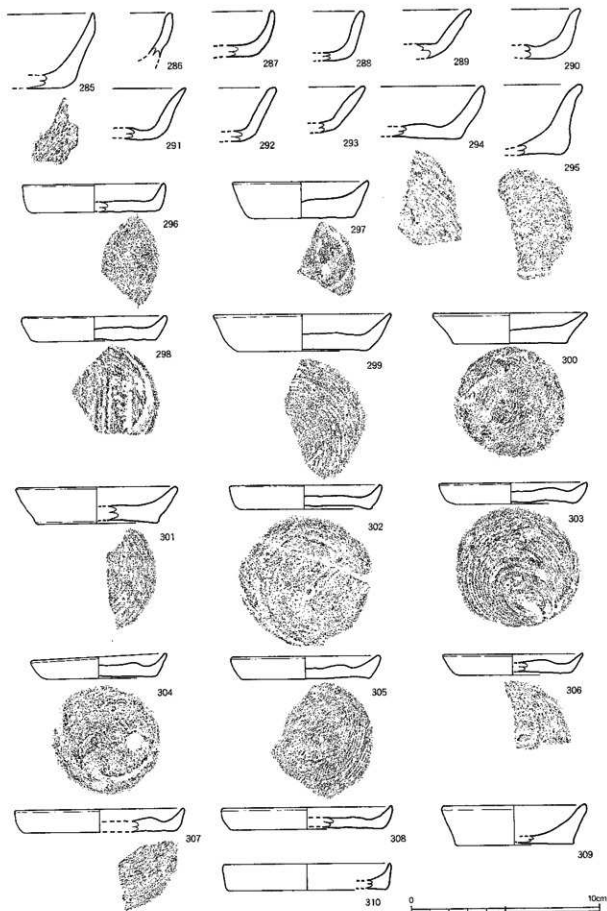
第129図 宮原土井の内遣跡2・3T平面図・土層図



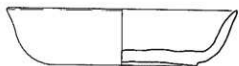
第130図 宮原土井の内遺跡出土遺物実測図1



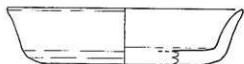
第131図 宮原土井の内遺跡出土遺物実測図2



第132図 宮原土井の内遺跡出土遺物実測図3



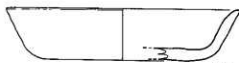
311



312



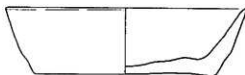
313



314



315



316



317



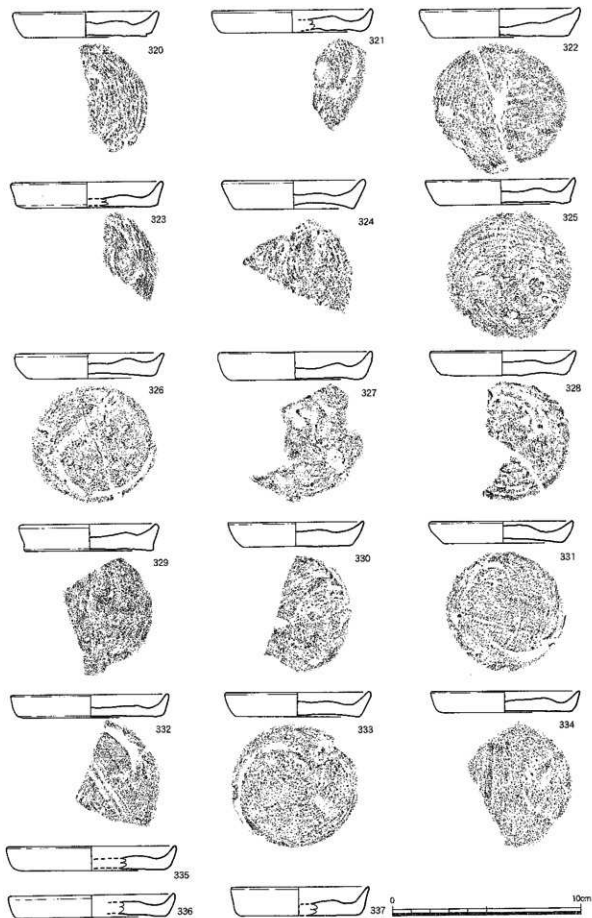
318



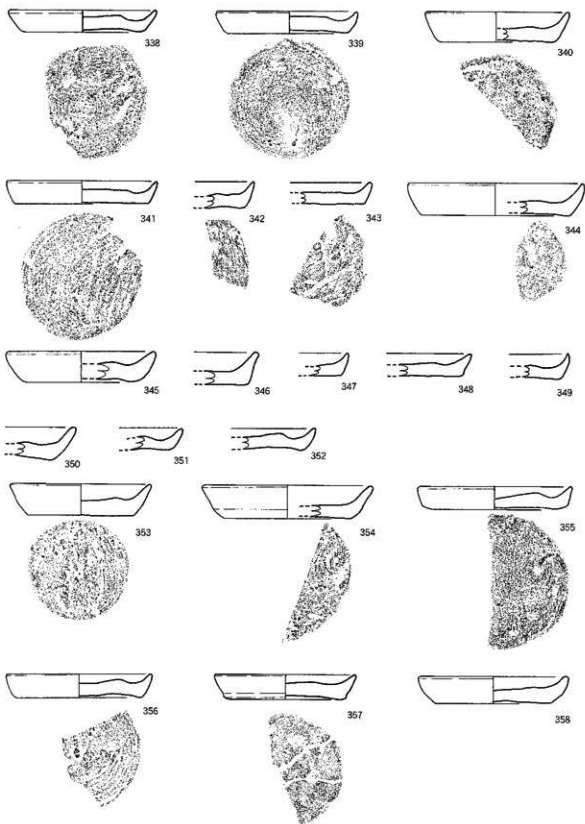
319



第133図 宮原土井の内遺跡出土遺物実測図4



第134図 宮原土井の内遺跡出土遺物実測図5



第135図 宮原土井の内遺跡出土遺物実測図6

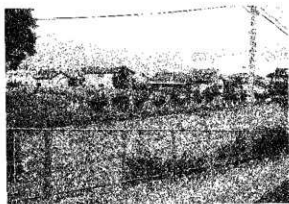


写真182 宮原土井の内遺跡全景（北西→南東）



写真183 宮原土井の内遺跡全景（南東→北西）



写真184 宮原土井の内遺跡1T全景



写真185 宮原土井の内遺跡2T全景

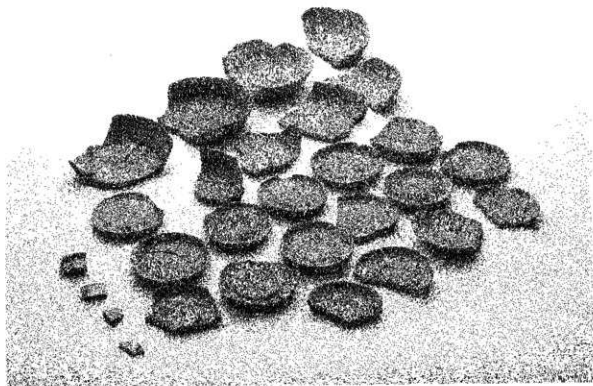


写真186 宮原土井の内遺跡出土遺物1

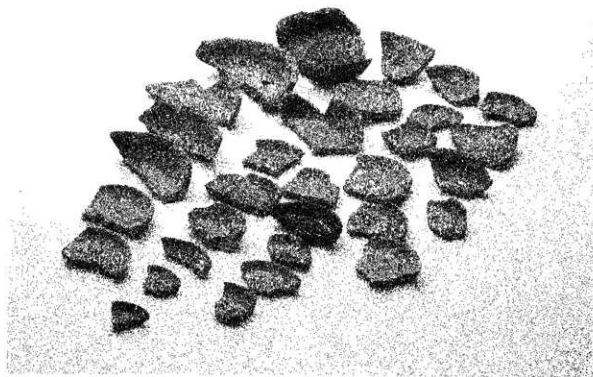


写真187 宮原土井の内遺跡出土遺物2

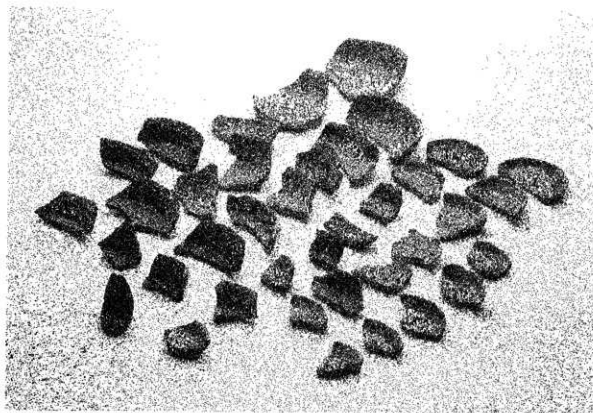


写真188 宮原土井の内遺跡出土遺物3

Ⅲ 測量調査

1 市道溝上3号線予定地

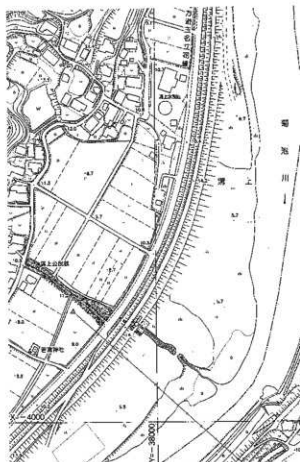
所在地：溝上

調査原因：市道建設

調査期間：平成21年7月27日～8月7日

担当者：田中康雄

調査地は、玉名市北部の菊池川右岸平野部に位置する。河川と丘陵部に挟まれた南北に細長い平野上に、約130mにわたり東西方向に堤防状の高まりが見られる。菊池川には、加藤清正による河川改修時の築堤が現在も部分的に残存しているが、これがその一部である可能性が考えられたため、全体の測量を実施し施工時に立会を行った。立会時に掘削部分の断面観察を行ったが、掘削範囲に関してはすべて山砂による盛土であり、それ以下に粘性土を確認した。おそらく既存築堤をさらに高めるために盛土を行ったと考えられる。このことから、掘削は盛土内に納まり旧築堤部には影響を及ぼさないと判断した。



第136図 市道溝上3号線予定地位置図 S=1/5,000

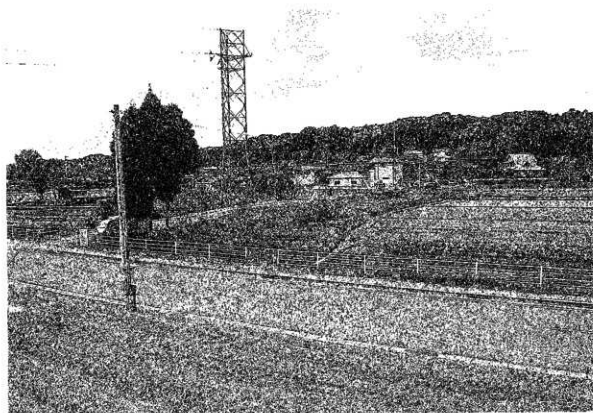


写真189 市道溝上3号線予定地全景

2 明人林均吾墓

所在地：天水町部田見字城ノ平

調査原因：保存目的

調査期間：平成21年3月1日～19日

担当者：荒木隆宏

調査地は、玉名市南東部の金峰山地から北西に延びる尾根筋先端部に位置する。北側の狭い谷間は「唐人口」と呼ばれ、付近には「蔵谷」、「船子崎」の地名がある。

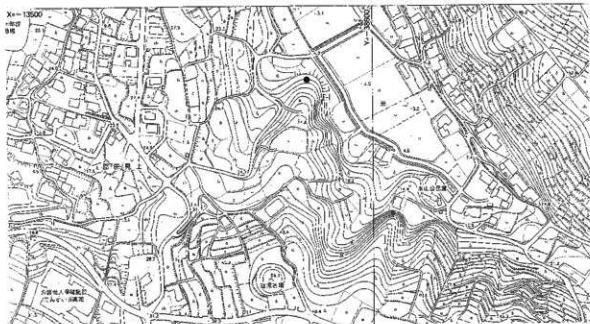
慶長9～12年（1604～1607）の間に5回渡海朱印状を得た林三官という人物がおり、林均吾はその一族と考えられる。林三官は、西洋（マカオ）・呂宋（フィリピン）・占城（ベトナム）などへ朱印船を出しており、広範に交易していたようである。また「本妙寺文書」には、加藤清正の船で暹羅（シャム）へ渡った船主「林右」の名前がある。

「三官」の地名は当該地北部に位置する玉名市伊倉西方字北牟田にあり、熊本市河内町船津にも「三官屋敷」という地名があったという。このことから林三官一族は、河内及び伊倉・高瀬地域を本拠に活動したと推測される。

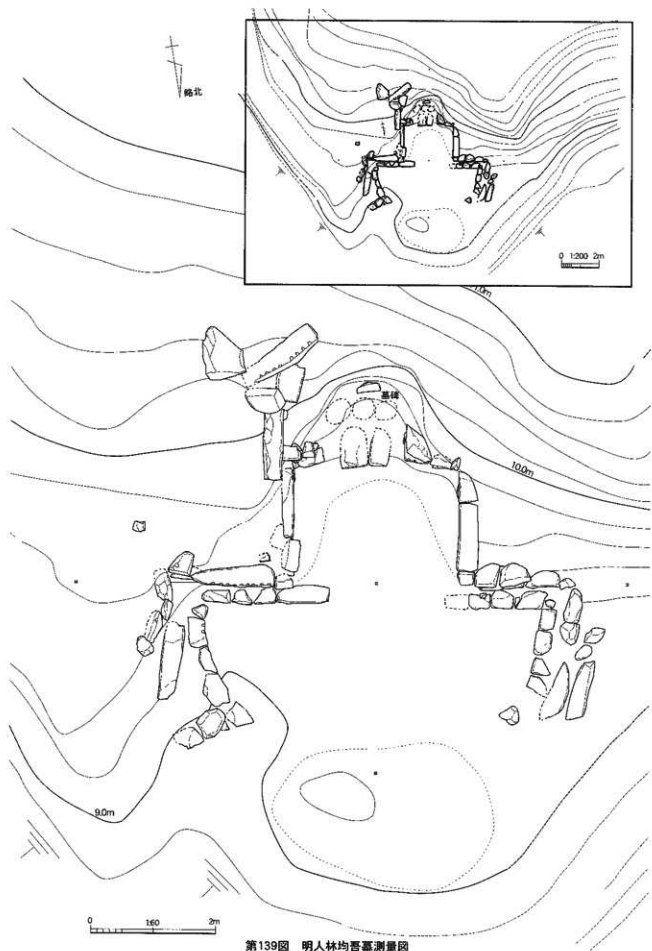
林均吾墓は、その子新作が元和7年（1621）

に建立したものである。部分的に不明な部分があるが、その形状は中国福建省南部の様式と共通性を有する玉名市伊倉北方所在の「四位官郭公墓」に類似している。北に面する斜面を利用して地面を凹字状に堀窪め、中央に上辺が湾曲する長方形の墓碑を立てる。墓碑には出身地を表す「龍郡」及び「元和七年林均吾墓 男新作立」との銘文が彫られている。墓碑前面には数石の基礎石が所在し、墓域は左右に2段の広がりをもつ。袖部に角柱状の石材が立てられているほかは、概ね横長の石材を2段に重ね、手前側の広がりの中にはさらに下部に石材が連なる。入口側が埋没しているため詳細は不明だが、墓域を湾曲しながら囲み、前庭部を形成するとみられる。元位置を留めていない石材が墓碑手前に散乱しているほか、側壁も一部積み直し等を行っている可能性がある。墓域規模は現状で東西7m、南北7mを測る。

明人林均吾墓は玉名市の指定史跡であるが、これまでに現地の測量や実測が行われていなかったため、保存目的として測量調査（平面測量のみ）を実施した。



第138図 明人林均吾墓位置図 S-1/5,000



第139图 明人林均营基测量图

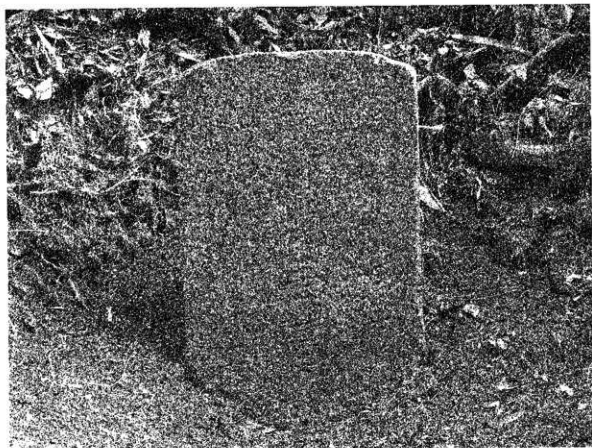


写真190 明人林均吾墓墓碑

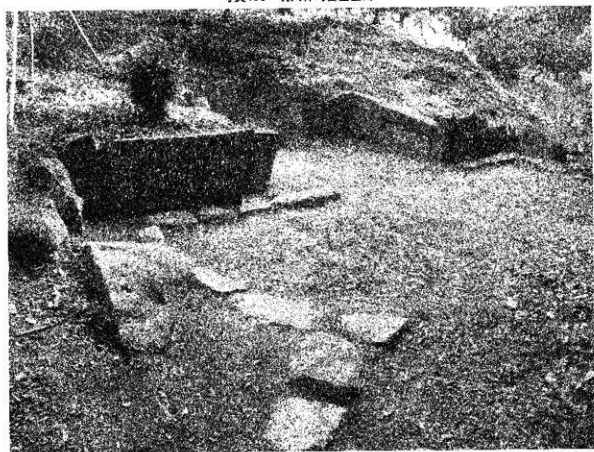


写真191 明人林均吾墓全景

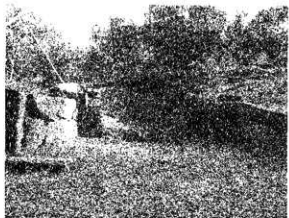


写真192 明人林均吾墓正面



写真193 明人林均吾墓墓碑左上から

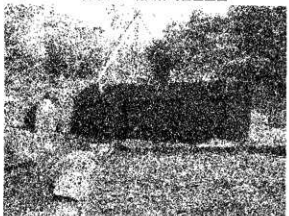


写真194 明人林均吾墓左侧正面



写真195 明人林均吾墓右侧正面



写真196 明人林均吾墓左侧面



写真197 明人林均吾墓右侧面



写真198 明人林均吾墓左手前



写真199 明人林均吾墓石材加工痕 (矢穴)

IV 発掘調査

1 富尾原横穴墓群 (16号横穴墓)

所在地：富尾 555、668-3

調査原因：自然崩壊

調査期間：平成 21 年 8 月 24 日～12 月 22 日

担当者：田中康雄

(1) 遺跡の概要

富尾原横穴墓群は、玉名市北西部の小代山より広がる丘陵の南西裾部に位置する。西から東に向かって緩やかに傾斜する扇状地の末端部北側の凝灰岩崖面に、約 70 m にわたって計 16 基の横穴墓が所在している。これらの内 3 号・7 号・10 号・12 号・13 号・15 号横穴墓に線刻による装飾が所在している。また 11 号横穴墓は全面が赤色顔料で塗られており、群内で重要な位置を占めるものと考えられている。この横穴墓群前面には民家が所在しているが、古くから集落化していたと考えられ、その影響からか、多くは横穴墓の前面部を消失しており、中には奥屍床のみ残存しているものもある。また、内部が倉庫として改造されているものもある。

(2) 調査に至る経緯

16 号横穴墓は、昭和 56 年に起こった土砂崩れの際に未開口の状態で見えられたが、その後約 30 年間手つかずの状態であった。発見時より前庭部及び、羨門部右半分を消失していたが、残存部についてもその後の風化や摩耗あるいはクラックの進行が激しく、もともと前庭部が削平されていたこともあって閉塞石を含めて崩落の危険性が高まっていた。南側隣接地に居住する地権者からも危険性除去の要望があり、協議の結果、現況の測量及び実測を行い、その後閉塞石を除去し、内部の調査を実施することとなった。

(3) 調査の方法

16 号横穴墓は、これまで本格的な調査が

行われていないため、周辺部を含めた地形測量及び閉塞状態での立面図の実測を要したが、表面を土砂や苔・雑草に覆われていたためそれらの除去から実施した。その後地形測量 (1/200 スケール)、大判カメラによる写真撮影 (モノクロ及びリバーサル) を行い、割付作業後、立面図の実測 (1/10 スケール) を行った。実測終了後、閉塞石を除去したが、その際に一部残存していた飾り縁の多くが崩落してしまった。横穴墓内部は、羨道の天井部まで上砂で埋没していたため、土層の確認・実測を行いながら人力により掘り進めた。内部の堆積土はすべて持ち帰り、副産品の有無を確認した。掘削終了後、内部の割付を行い、平面及び見通し (左右及び奥の 3 面) の実測 (すべて 1/10 スケール) を行った。

(4) 遺構・遺物

・遺構

16 号横穴墓は横穴墓群の東端に所在し閉塞状態にあった。閉塞石は上部にやや丸みをつけた形状で、幅 80 cm、高さ 112 cm、厚さ 25 cm を測る。全体的に崩落と風化が激しく明確ではなかったが、閉塞石外側の左側面部に飾り縁の一部らしきものが残存していた。おそらく二重の飾り縁を有したものと想定されるが、閉塞石除去の際にその多くが崩落してしまった。羨門部は崩落により右半分のみ残存であるが、高さ 105 cm、幅 70 cm 程度のアーチ形を呈すると思われる。羨門から玄室までの通路は長さ 77 cm、幅 60 cm を測る。玄室は「コ」の字形屍床を有し、奥屍床は別造りになっている。奥屍床を除く部分の床面は方形で、中央通路は奥屍床に向かい高くなる。天井は奥が高くなるドーム形で、奥行き 176 cm、幅 185 cm、高さ 167 cm を測る。奥屍床の床面は横長の楕円形で、天井はドーム形である。奥行き 55 cm、幅 166 cm、高さ

96 cmを測る。羨門と奥屍床の床面の高低差は100 cmを越える。奥屍床及び左右屍床の仕切りには水抜き穴が所在し、穴を通して中央通路へ排水される。

・遺物（第151・152図）

遺物は、奥屍床・左右屍床の床面直上及び中央の通路部より馬具（円環轡359及び部位不明の小片360・361）・刀子（362）・鉄鏃（363～365）・耳環（366～369）が出上している。また堆積土の上層部より銘不明の古銭4枚（内3枚は重なった状態）及び中世期の土師器小片1点が出土している。副葬品のみ実測図を掲載する。

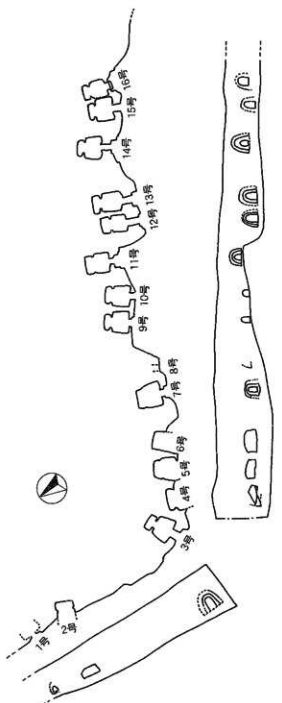
(5) まとめ

16号横穴墓は昭和56年の発見時から閉塞状態にあり未開口の横穴墓とされていた。しかし閉塞石を除去すると、羨道部及び玄室（奥屍床は除く）の大半が土砂で埋没し、上層部には古銭や中世期の土師器が含まれる状況であった。また副葬品の出土状況から多くが原位置を留めていないと考えられ、その点数も少ない。よってこの横穴墓は、盗掘等により開口された後に再度閉塞された可能性が高いと考えられる。

16号横穴墓の形状は、群内の他の横穴墓と比べて著しく簡素である。他の横穴墓には棟や軒先の表現がみられ、線刻や彩色による装飾が施されるものもあるのに対して、16号横穴墓はドーム形を呈し装飾も見られない。16号横穴墓が造られた部分の岩質は、他と比べて非常にもろく表面が粉状になっており混入物も多い状況であったが、これが細かな加工を困難にしたのではないかと考えられる。

【追記】

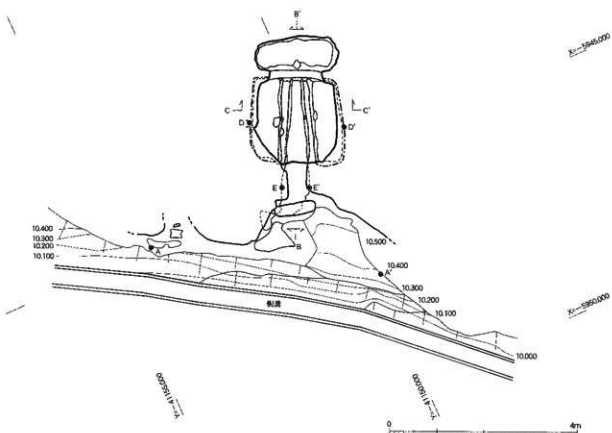
平成22年7月上旬の大雨により3号横穴墓の天井が崩落し埋没してしまっった。



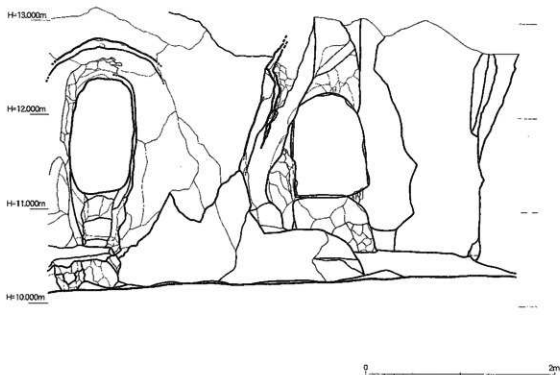
【引用・参考文献】

高木正文1984「熊本県裝飾古墳総合調査報告書」
熊本県文化財調査報告第68集 熊本県教育委員会

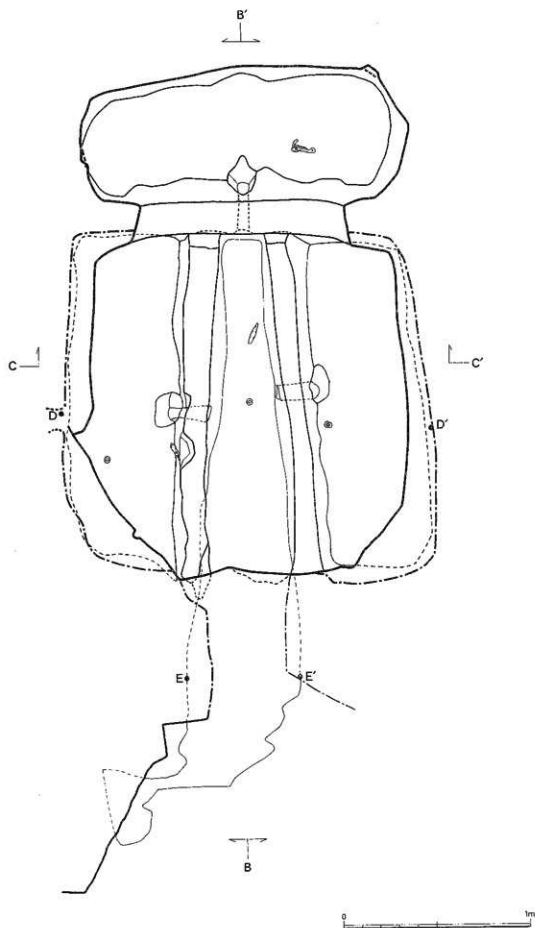
第141図 富尾原横穴墓群配置図 S=1/400



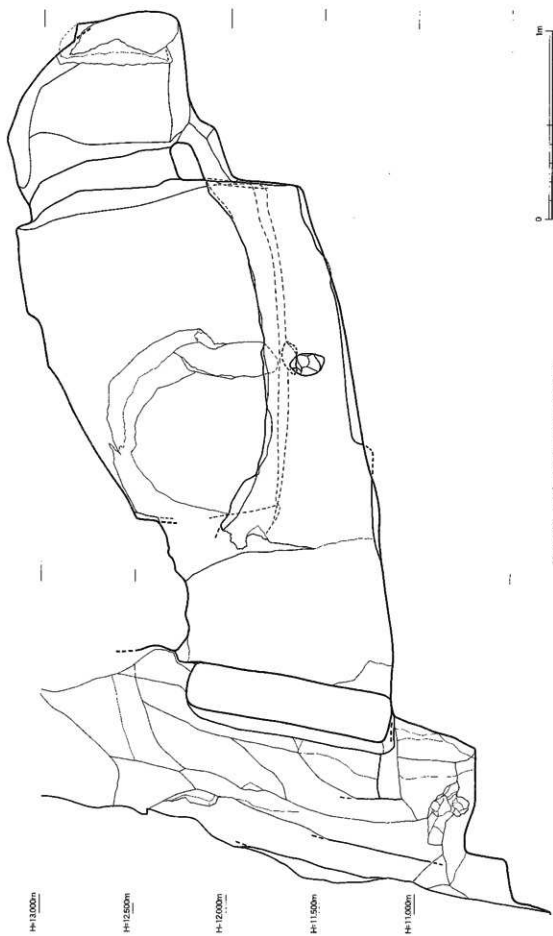
第142図 富尾原横穴墓群調査地測量図



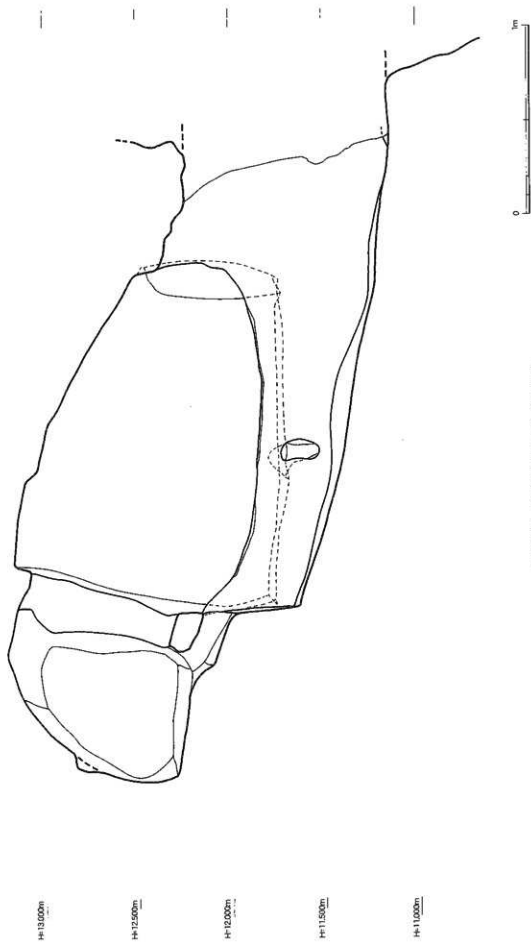
第143図 A-A'立面図（閉塞石除去前）



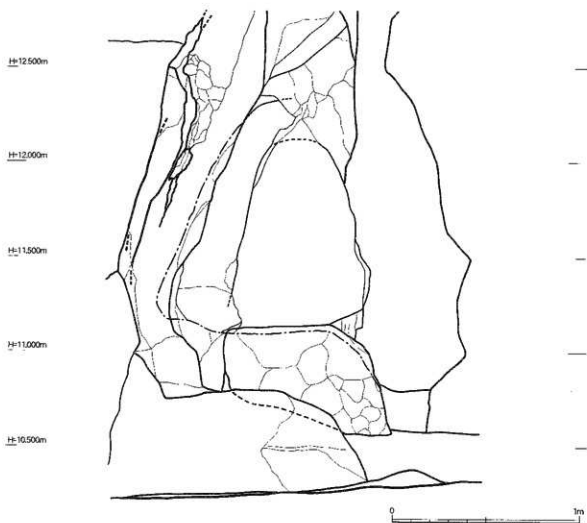
第144图 16号横穴墓平面图



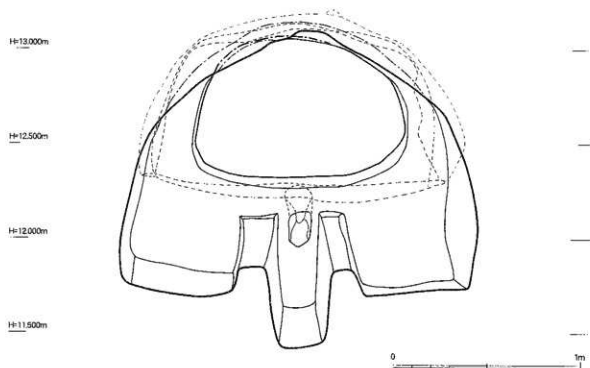
第145图 B-B'立剖面 (中央→左剖面)



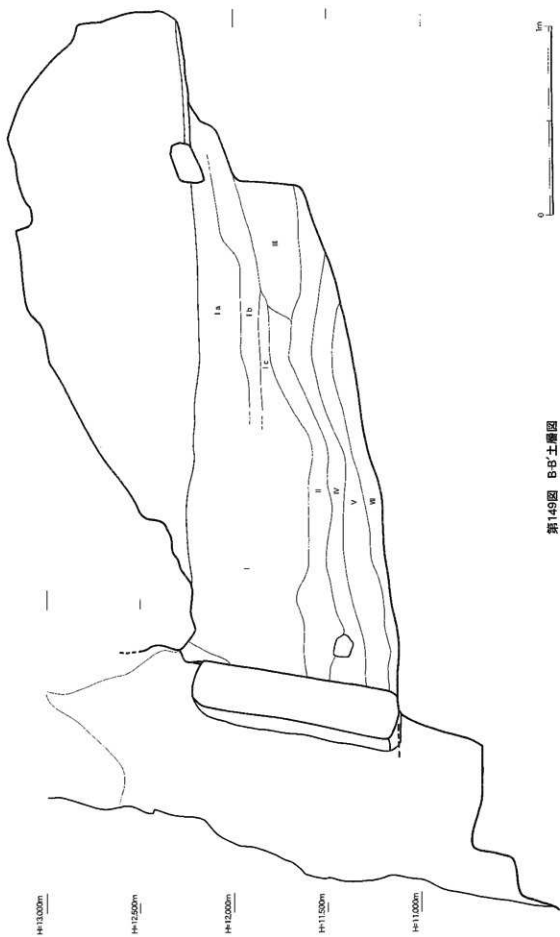
第146図 B-B立面図 (中央→右側面)



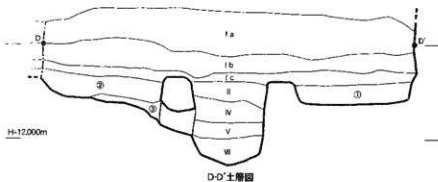
第147図 16号横穴墓後門部立面図（閉塞石除去後）



第148図 C-C'立面図（中央→奥屍床）

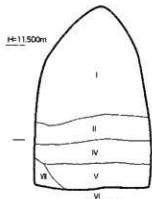


第149図 B-B'土層図



H=12,000m

D-D'土層図



H=11,500m

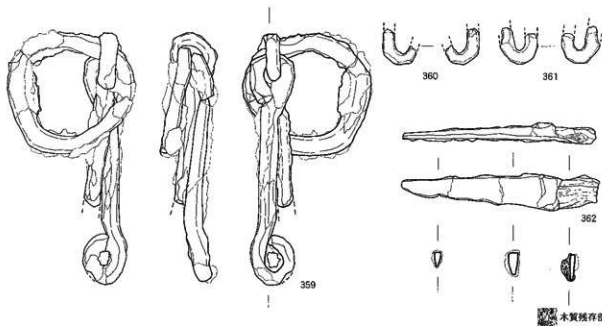
E-E'土層図

- I a 暗褐色土(10YR3/3) しまりがあり、あまり粘性を有しない。土中に白色・褐色の粒を含む。
 I b 褐色土(10YR4/4) しまりがあり、あまり粘性を有しない。土中に白色・褐色の粒を含む。I aより細かい。
 I c 褐色土(10YR4/4) しまりがあり、あまり粘性を有しない。土中に白色・褐色の粒を含む。I bより粗い。
 II 暗褐色土(10YR3/3) あまりしまりがなく、粘性を有しない。粒子が細かい。凝灰岩が風化して土壌化したものと思われる。
 III 暗褐色土(10YR3/4) ややしまりがあり、多少粘性を有する。
 IV 暗褐色土(10YR2/2) しまりがなく、粘性を有しない。粒子が細かい。凝灰岩が風化して土壌化したものと思われる。
 V 暗褐色土(10YR3/4) ややしまりがあり、わずかに粘性を有する。粒子が細かい。
 VI 濃い灰褐色土(10YR4/3) しまりがあり、粘性を有しない。粒子が細かい。
 VII 暗褐色土(10YR3/3) ややしまりがあり、わずかに粘性を有する。粒子が細かく白色の粘性土を含む。

- ① 暗褐色土(10YR3/4) しまりがあり、粘性を有する。一部に凝灰岩片・小礫を含む。
 ② 褐色土(10YR4/4) しまりがあり、わずかに粘性を有する。
 ③ 暗褐色土(10YR3/3) ややしまりがあり、多少粘性を有する。

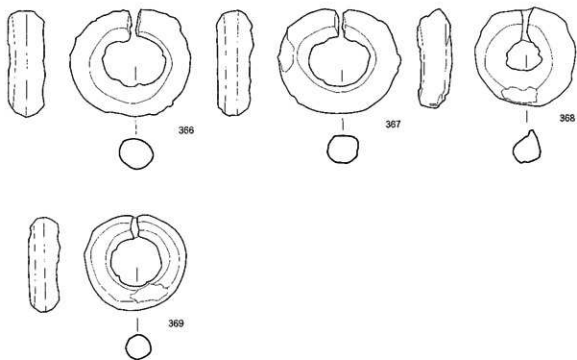
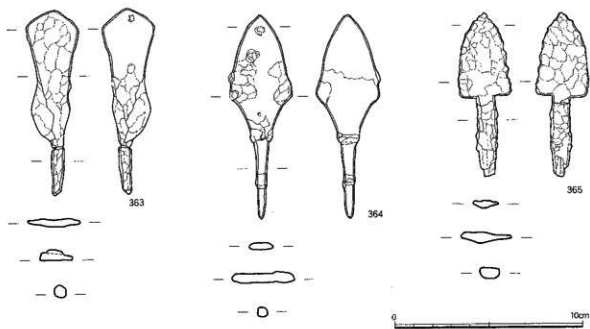
第150図 D-D'・E-E'土層図

0 1m



0 10cm

第151図 16号横穴墓出土遺物実測図1



第152图 16号横穴墓出土遗物实测图2



写真200 富尾原横穴墓群16号横穴墓全景

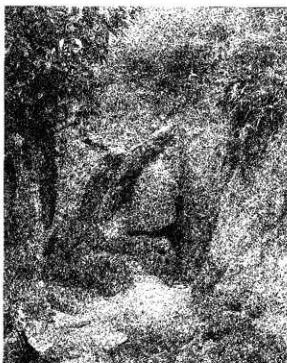


写真201 富尾原横穴墓群16号横穴墓清掃後



写真202 16号横穴墓内出土遺物1

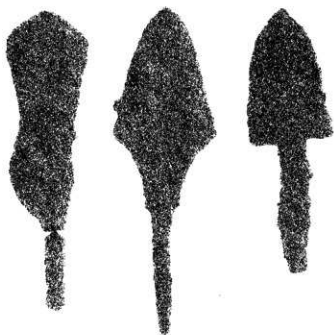


写真203 16号横穴墓内出土遺物2

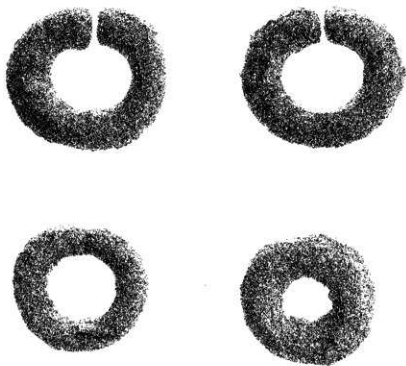


写真204 16号横穴墓内出土遺物3

調査年度	遺跡名	出土品名	種別	形状・部位	長さ (cm)	重量 (g)	材質	外周	内周	色	表面	内面	出土	状態	備考	
47	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	7.2	15.9	褐色	5796/6	5796/2	灰褐色	10795/2	10795/2	細灰~10c式の灰土、灰石をわずかに含む	良		
48	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	7.4	17.7	に少し黄褐色	10797/4	10797/4	淡黄褐色	10797/3	10797/3	10c式の灰土、灰石を少量含む	良		
49	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	8.4	13.7	に少し黄褐色	7599/3	7599/3	灰褐色	10795/2	10795/2	10c式の灰土、灰石、角閃石を少量含む	良		
50	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	5.8	13.2	に少し黄褐色	10798/4	10798/4	に少し黄褐色	10795/3	10795/3	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
51	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	18.0	黄褐色	10798/4	10798/4	に少し黄褐色	10795/3	10795/3	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
52	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	18.2	—	淡黄褐色	7599/4	7599/4	灰褐色	10795/2	10795/2	細灰~10c式の灰土、灰石、輝石を少量含む	良	体部最大径 27.0cm	
53	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	17.8	—	淡黄褐色	7599/2	7599/2	黄褐色	10795/1	10795/1	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
54	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	23.0	—	褐色	3798/4	3798/4	褐色	3798/4	3798/4	10c式の灰土、灰石を多く含む	良	内外面 磨部	
55	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	24.2	—	に少し黄褐色	7597/4	7597/4	に少し黄褐色	23798/3	23798/3	細灰~10c式の灰土、灰石、輝石を多く含む	良		
56	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	15.8	淡黄褐色	10798/4	10798/4	淡黄褐色	10798/4	10798/4	細灰~10c式の灰土、灰石をわずかに含む	良		
57	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	9.8	—	淡黄褐色	10798/3	10798/3	淡黄褐色	10798/3	10798/3	細灰~10c式の灰土、灰石を少量含む	良		
58	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	6.2	黄褐色	10797/4	10797/4	灰褐色	10798/2	10798/2	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
59	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	18.0	17.2	に少し黄褐色	7597/4	7597/4	灰褐色	7597/2	7597/2	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
60	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	8.0	14.5	淡黄褐色	7598/4	7598/4	淡黄褐色	10797/3	10797/3	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
61	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	5.8	15.6	黄褐色	10797/4	10797/4	に少し黄褐色	10797/3	10797/3	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
62	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	6.6	黄褐色	1389/4	1389/4	に少し黄褐色	10797/3	10797/3	1~200c式の灰土、灰石を多く含む	良		
63	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	7.2	8.0	18.3	10797/6	10797/6	褐色	5798/4	5798/4	細灰~10c式の灰土、灰石、角閃石を多く含む	良		
64	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	—	12.2	淡黄褐色	7598/4	7598/4	淡黄褐色	7597/3	7597/3	細灰~10c式の灰土、灰石をわずかに含む	良	
65	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	11.6	—	11.6	に少し黄褐色	10797/4	10797/4	淡黄褐色	7598/4	7598/4	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良	
66	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	—	7.2	10797/4	10797/4	淡黄褐色	7597/4	7597/4	細灰~10c式の灰土、灰石をわずかに含む	良		
67	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	—	9.8	25798/2	25798/2	褐色	25798/2	25798/2	細灰~10c式の灰土、灰石、角閃石を多く含む	良		
68	年の神遺跡	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	—	8.5	10797/3	10797/3	黄褐色	10797/3	10797/3	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		
70	持玉土器	持玉土器	持玉土器	口縁部	—	—	0.8	10798/2	10798/2	に少し黄褐色	7597/4	7597/4	細灰~10c式の灰土、灰石を多く含む	良		

国名	産地名	出土地名	産量	単位	口産量(トン)	外産量(トン)	内産量(トン)	外産率(%)	内産率(%)	色	品質	備考
71	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	-	100	2.5972/4	100%の石炭をわずかに含む	黒
72	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	-	100	2.5978/2	細かい石炭、長石、角閃石、赤黄鉄を多く含む	黒
73	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	-	100	2.5974/1	細かい石炭、長石、角閃石、赤黄鉄を含む	黒
74	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	0.40	ナズ	ナズ	(4.1)	95.9	10798/2	細粒～1mm次の石炭、長石を多く含む	中～黒
75	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(2.8)	97.2	10798/2	細粒～1mm次の石炭、長石を少量含む	黒
76	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	(8.1)	ナズ	ナズ	(8.1)	91.9	10797/4	細かい石炭、角閃石をわずかに含む	中～黒
77	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(1.2)	98.8	2.5971/1	細かい角閃石、輝石をわずかに含む	黒
78	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(2.8)	97.2	10798/2	細かい角閃石、輝石をわずかに含む	黒
79	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(8.8)	91.2	1074/1	細かい石炭をわずかに含む	黒
80	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(1.1)	98.9	Nd 0	1mm～3mm次の石炭、長石をわずかに含む	黒
81	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(8.2)	91.8	2.5978/4	細かい石炭をわずかに含む	黒
82	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	0.6	ナズ	ナズ	(4.3)	95.7	10798/4	細粒～1mm次の石炭、長石を多く含む	黒
83	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	(1.4)	ナズ	ナズ	(1.4)	98.6	2.5978/4	細粒～1mm次の石炭、長石を多く含む	黒
84	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(1.3)	98.7	10798/2	細粒～1mm次の石炭、長石を少量含む	黒
85	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(4.3)	95.7	2.5978/4	1～2mm次の石炭をほぼ含む	黒
86	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(2.7)	97.3	10798/2	細粒～1mm次の石炭、長石をほぼ含む	黒
87	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(5.3)	94.7	2.5978/4	細かい石炭、長石を少量含む	黒
88	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(3.8)	96.2	2.5978/4	細かい石炭、長石を少量含む	黒
89	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(4.0)	96.0	10798/2	1mm次の石炭をわずかに含む	黒
90	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(5.5)	94.5	2.5971/1	1mm次の石炭を少量含む	黒
91	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	-	ナズ	ナズ	(19.2)	80.8	2.5978/4	細粒～1mm次の石炭、長石を多く含む	中～黒
92	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	(8.8)	ナズ	ナズ	(8.8)	91.2	2.5978/2	細粒～1mm次の石炭、長石をほぼ含む	黒
93	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	伊豆群山中間峠 山手産	山口産物	(1.8)	ナズ	ナズ	(1.8)	98.2	10798/4	1mm次の石炭、長石、輝石をほぼ含む	中～黒

調査番号	調査地名	出土物名	種別	数量	位置 (m)		調査時期	調査者	土色		備考
					位置	深さ			内面	外面	
114	弥生時代古墳群 古墳1号	弥生土器 須恵焼	須恵土器	1	—	(3.5)	ナリ	ナリ	107R6/4	107R6/4	1m次の石炭、角閃石、輝石をやや多く含む
115	弥生時代古墳群 古墳2号	弥生土器	須恵土器	—	—	(4.5)	須恵土器	須恵土器	2.57R6/4	2.57R6/4	細粒～1mm次の石炭、長石を多く含む
116	弥生時代古墳群 古墳3号	弥生土器	須恵土器	—	7.7	(7.6)	ナリ	ナリ	2.57R6/3	2.57R6/3	細粒～2mm次の石炭、長石を多く含む、1mm次の輝石をわずかに含む
117	弥生時代古墳群 古墳4号	弥生土器	須恵土器	—	—	(1.6)	ナリ	ナリ	2.57R6/4	2.57R6/4	1mm次の石炭、長石をほぼ含む
118	弥生時代古墳群 古墳5号	弥生土器	須恵土器	—	—	(3.3)	ナリ	ナリ	107R6/3	107R6/3	細粒～2mm次の石炭、長石をほぼ含む
119	弥生時代古墳群 古墳6号	弥生土器	須恵土器	—	6.6	4.5	ナリ	ナリ	51R6/6	51R6/6	細粒～1mm次の石炭、長石をほぼ含む
200	弥生時代古墳群 古墳7号	弥生土器	須恵土器	—	—	—	—	—	2.57R6/4	2.57R6/4	1mm次の石炭、角閃石、輝石をわずかに含む
201	弥生時代古墳群 古墳8号	弥生土器	須恵土器	—	—	(9.7)	ナリ	ナリ	107R7/4	107R7/4	細粒～2mm次の石炭、長石を少量含む
202	弥生時代古墳群 古墳9号	弥生土器	須恵土器	—	—	(1.6)	ナリ	ナリ	107R6/4	107R6/4	細粒～1mm次の石炭、長石、角閃石を少量含む
203	弥生時代古墳群 古墳10号	弥生土器	須恵土器	—	—	(3.5)	ナリ	ナリ	107R7/6	107R7/6	細粒～1mm次の石炭、角閃石、輝石をほぼ含む
204	弥生時代古墳群 古墳11号	弥生土器	須恵土器	—	—	(2.8)	ナリ	ナリ	107R7/4	107R7/4	細かい石炭、長石、角閃石、輝石をほぼ含む
205	弥生時代古墳群 古墳12号	弥生土器	須恵土器	—	—	(1.6)	ナリ	ナリ	107R7/4	107R7/4	細かい石炭、長石を多く含む
206	弥生時代古墳群 古墳13号	弥生土器	須恵土器	—	—	(7.6)	ナリ	ナリ	2.57R6/1	2.57R6/1	1～2mm次の石炭、長石を多く含む
207	弥生時代古墳群 古墳14号	弥生土器	須恵土器	—	2.5	(1.2)	ナリ	ナリ	107R6/1	107R6/4	1mm次の石炭、長石を少量含む
214	弥生時代古墳群 古墳15号	弥生土器	須恵土器	—	4.2	(7.1)	ナリ	ナリ	2.57R7/8	2.57R7/8	1mm次の石炭、長石を少量含む
215	弥生時代古墳群 古墳16号	弥生土器	須恵土器	—	—	(7.2)	ナリ	ナリ	107R6/8	107R6/8	細粒～2mm次の石炭、長石、角閃石、輝石をわずかに含む
216	弥生時代古墳群 古墳17号	弥生土器	須恵土器	—	—	(18.2)	ナリ	ナリ	2.57R6/4	2.57R6/4	1mm次の石炭、長石をやや多く含む
219	弥生時代古墳群 古墳18号	弥生土器	須恵土器	—	—	(3.3)	ナリ	ナリ	107R6/4	107R6/4	細かい石炭、長石を多く含む
220	弥生時代古墳群 古墳19号	弥生土器	須恵土器	—	—	(18.2)	ナリ	ナリ	2.57R6/4	2.57R6/4	細粒～1mm次の石炭、長石、角閃石を少量含む
221	弥生時代古墳群 古墳20号	弥生土器	須恵土器	—	—	(4.3)	ナリ	ナリ	107R6/3	107R6/3	細かい石炭、長石をわずかに含む
222	弥生時代古墳群 古墳21号	弥生土器	須恵土器	—	—	(9.2)	ナリ	ナリ	2.57R6/4	2.57R6/4	細粒～2mm次の石炭、長石を少量含む
223	弥生時代古墳群 古墳22号	弥生土器	須恵土器	—	—	(11.2)	ナリ	ナリ	2.57R7/4	2.57R7/4	細粒～1mm次の石炭、長石を多く含む
224	弥生時代古墳群 古墳23号	弥生土器	須恵土器	—	—	(17.2)	ナリ	ナリ	2.57R6/2	2.57R6/2	細粒～1mm次の石炭、長石をほぼ含む

調査 番号	調査地名	出土場所	種類	形状	口径 cm	高さ cm	重量 g	調査経過		分析		備考		
								採取	写真	内面	外面			
249	塚原遺跡	F75	弥生土器	杯	—	(2.1)	—	ハツタ	ハツタ	10798/4	褐色	10792/1	1~2cm程度の石をまわすかごに含む	片
250	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(3.5)	—	ナギ	ナギ	10797/4	褐色	10797/8	細かい石、黒石を少量含む	片
251	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(2.2)	—	ナギ	ハツタ?	10797/6	にぶい黄褐色	10797/4	細粒~10cmの石、黒石を少量、角閃石、輝石をわずかに含む	片
252	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(1.3)	—	ナギ	ナギ	10797/3	褐色	10797/8	細粒~10cmの石、黒石を少量含む	やや片
253	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(1.0)	—	ナギ	ナギ	10798/8	褐色	10798/8	細粒~10cmの石、黒石を少量含む	片
254	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(0.8)	—	ハツタ	ハツタ、ハツタ スリヤ	10797/4	褐色	10797/8	細粒~20cmの石、黒石を中や多く、角閃石、輝石をわずかに含む	片
255	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(3.0)	—	少やハ、ナギ	ハツタ	10798/4	淡黄褐色	10798/4	細粒~10cmの石、黒石を多く含む	片
256	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(0.9)	—	ナギ	ナギ	10797/4	淡黄褐色	10798/4	細かい石、黒石、角閃石、輝石を少量含む	片
257	塚原遺跡	包出層	弥生土器	壺	—	(3.0)	—	ナギ	ナギ	10798/4	にぶい黄褐色	10797/4	細粒~10cmの石、黒石、角閃石、輝石をまばらに含む	片
258	塚原遺跡	包出層	弥生土器	鉢	—	(4.7)	—	ハツタ、ナギ	ハツタ、ナギ	10798/6	褐色	10798/8	細粒~10cmの石、黒石を少量含む	片
259	塚原遺跡	2T	弥生土器	壺	(35.6)	—	(6.0)	ナギ	ナギ	10797/4	にぶい黄褐色	10797/2	細粒~10cmの石、黒石を多く、細かい角閃石、輝石をわずかに含む	やや片
260	塚原遺跡	2T	弥生土器	壺	—	(6.7)	—	ナギ、ハツタ	ナギ	10797/4	にぶい黄褐色	10797/4	細粒~10cmの石、黒石を多く、角閃石、輝石をまばらに含む	やや片
261	塚原遺跡	2T	弥生土器	壺	—	(2.0)	—	ナギ	ナギ	10797/4	褐色	10797/4	細粒~10cmの石、黒石を少量含む	片
262	塚原遺跡	2T	弥生土器	壺	—	(2.0)	—	細粒土、ナギ	—	10798/2	—	—	細かい石、黒石をまばらに含む	片
263	宮原土器の内 面遺跡	1T	弥生土器	鉢	(2.0)	—	(2.0)	細粒土、黒 土、立派	細粒土、黒 土	1077/2	淡黄色	977/3	細かい石、黒石をまばらに含む(細粒)とれる	片
264	宮原土器の内 面遺跡	1T	弥生土器	鉢	—	(1.0)	—	細粒土、黒 土、立派	細粒土、黒 土	10798/1	ナギ	9079/1	細粒とれる	片
265	宮原土器の内 面遺跡	1T	弥生土器	鉢	—	(1.0)	—	細粒土、黒 土	細粒土、黒 土	976/1	灰白色	977/1	細粒とれる	片
266	宮原土器の内 面遺跡	1T	弥生土器	鉢	—	(1.0)	—	細粒土、黒 土	細粒土、黒 土	10794/2	灰ナギ	10794/2	細粒とれる	片
267	宮原土器の内 面遺跡	1T	弥生土器	鉢	(13.0)	(11.3)	2.5	細粒土、黒 土、赤褐色	細粒土	10798/4	淡黄褐色	10798/4	細かい石、黒石、角閃石をまばらに含む	片
268	宮原土器の内 面遺跡	1T	弥生土器	鉢	(13.0)	(11.2)	2.6	細粒土、黒 土、赤褐色	細粒土	10797/4	にぶい黄褐色	10797/4	細かい石、黒石、角閃石を少量含む	片
269	宮原土器の内 面遺跡	1T	弥生土器	鉢	(14.0)	(9.0)	2.7	細粒土、黒 土、赤褐色	細粒土	10798/4	淡黄褐色	10798/4	細かい石、黒石、角閃石を少量含む	片
270	宮原土器の内 面遺跡	5-14	弥生土器	壺	(10.0)	(10.0)	2.7	細粒土、黒 土、赤褐色	細粒土	10798/4	淡黄褐色	10798/4	細かい石、黒石、角閃石をまばらに含む	片
271	宮原土器の内 面遺跡	5-2	弥生土器	壺	(13.0)	(13.0)	2.8	細粒土、黒 土、赤褐色	細粒土	10798/4	淡黄褐色	10798/4	細かい石、黒石、角閃石をまばらに含む	片

国名	品名	出产地	规格	重量 (kg)	管理番号		色		備考	
					外番	内番	外色	内色		
295	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	—	27	田代ナ子	淡黄褐色	10YR6/4	細かい石莖、角閃石を多量に含む	黄
296	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	14	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	7.5YR6/3	細かい石莖、角閃石を多量に含む	黄
297	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.2	15	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	7.5YR6/3	細かい石莖、角閃石を多量に含む	黄
298	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	15	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	10YR6/3	10μmの石莖、輝石をわずかに含む	黄
299	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.3	20	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	10YR6/4	細かい石莖、角閃石、輝石をわずかに含む	黄
300	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.2	6.1	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	10YR6/4	細かい石莖、角閃石、輝石をわずかに含む	黄
301	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	15	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	10YR6/3	細かい石莖、角閃石を多量含む	黄
302	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	6.1	7.4	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	10YR6/4	細かい石莖、角閃石を多量含む	黄
303	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	7.7	6.9	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	10YR6/3	細かい石莖、角閃石をわずかに含む	黄
304	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	7.2	6.9	10μ-13	淡黄褐色	7.5YR6/4	細かい石莖、角閃石を多量に含む	黄
305	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	13	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	10YR6/4	細かい角閃石を少量含む	黄
306	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	13	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	7.5YR6/3	細かい石莖、角閃石を多量に含む	黄
307	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	10.0	12	田代ナ子、赤部、赤切小	10YR6/3	細かい角閃石をわずかに含む	黄
308	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	10.0	12	田代ナ子、赤部、赤切小	10YR6/4	細かい石莖、角閃石を多量含む	黄
309	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	6.2	2.1	田代ナ子、赤部、赤切小	10YR6/4	細かい石莖、角閃石を少量含む	黄
310	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	6.6	1.4	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	細かい石莖、角閃石を多量含む	黄
311	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	2.0	3.9	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	細かい石莖、角閃石を多量含む	黄
312	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	0.4	2.0	田代ナ子、赤部、赤切小	褐色	細かい石莖、角閃石を多量含む	黄
313	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	0.2	3.2	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	細かい石莖、角閃石を多量に含む	黄
314	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	0.0	2.7	田代ナ子、赤部、赤切小	褐色	細かい石莖、角閃石を多量に含む	黄
315	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	12.6	8.9	3.6	田代ナ子、赤部、赤切小	10YR7/3	細かい石莖、角閃石を少量含む	黄
316	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	0.6	3.5	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	細かい石莖、角閃石を少量含む	黄
317	岩手産の内産品	IT 土師器	土師器	0.6	0.0	3.4	田代ナ子、赤部、赤切小	淡黄褐色	細かい石莖、角閃石を少量含む	黄

区分	調査地名	出土品名	種類	長さ (cm)	器 身		土 色		土 質	出土	位置	備考
					外 径	内 径	外 色	内 色				
341	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	0.0	0.2	1.2	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石、角閃石をばらばらに含む	真	
342	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	—	1.4	—	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石、角閃石をばらばらに含む	真	
343	宮野土井の内 溝跡	IT 5-4	土師器	—	1.1	—	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石を少量含む	やや中長	
344	宮野土井の内 溝跡	IT 5-4	土師器	0.2	0.2	1.7	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	真	
345	宮野土井の内 溝跡	IT 5-12	土師器	0.0	0.0	1.85	褐色	褐色	107R/1	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	真	
346	宮野土井の内 溝跡	IT 5-12	土師器	—	—	1.8	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	やや中長	
347	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	—	1.2	—	褐色	褐色	107R/2	細砂い石家、角閃石を少量含む	やや中長	
348	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	—	1.2	—	褐色	褐色	107R/2	細砂い石家、角閃石を少量含む	やや中長	
349	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	—	1.3	—	褐色	褐色	107R/2	細砂い石家、角閃石を少量含む	真	
350	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	—	1.8	—	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	真	
351	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	—	1.2	—	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	やや中長	
352	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	—	1.1	—	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石を少量含む	真	
353	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	0.0	0.8	1.7	褐色	褐色	107R/8	細砂い石家、角閃石を少量含む	やや中長	
354	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	0.2	0.0	1.8	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	真	
355	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	0.0	0.0	1.2	褐色	褐色	107R/2	細砂い石家、角閃石を少量含む	真	
356	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	0.0	0.0	1.3	褐色	褐色	107R/2	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	真	
357	宮野土井の内 溝跡	IT 5-9	土師器	0.0	0.0	1.3	褐色	褐色	107R/4	細砂い石家、角閃石を少量含む	やや中長	
358	宮野土井の内 溝跡	IT 5-2	土師器	0.0	0.0	1.4	褐色	褐色	107R/8	細砂い石家、角閃石、角閃石を少量含む	やや中長	

第3表 出土遺物観察表(石器)

図版番号	遺跡名	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材
69	年の神遺跡	—	磨石	8.7	8.0	5.5	426	安山岩
127	市道岱明玉名線 予定地	6T	磨石・敲石	7.9	3.9	3.8	167	安山岩
150	市道岱明玉名線 予定地	7T	磨製石斧	12.8	6.1	2.8	275	安山岩
151	市道岱明玉名線 予定地	7T III層	砥石	(14.4)	(11.5)	6.2	1,300	砂岩
152	市道岱明玉名線 予定地	7T III層	砥石	(19.0)	(14.3)	5.7	2,000	砂岩
168	市道岱明玉名線 予定地	20T IV層	砥石	(5.1)	3.2	3.1	88	砂岩
171	市道岱明玉名線 予定地	21T	台石	8.0	9.7	7.0	843	安山岩
176	市道岱明玉名線 予定地	26T III層	磨石	(10.2)	(6.3)	(6.6)	591	安山岩
180	市道岱明玉名線 予定地	30T IV層	台石	(5.9)	(11.4)	4.3	514	安山岩
208	塚原遺跡	S-02	石鏃	1.9	(1.4)	0.4	1	安山岩
209	塚原遺跡	S-02	石鏃	1.7	(1.2)	0.4	1g以下	安山岩
210	塚原遺跡	S-02	石鏃	(1.4)	(1.8)	0.5	1	黒曜石
211	塚原遺跡	S-02	石鏃 (未製品)	3.6	2.4	0.9	7	安山岩
212	塚原遺跡	S-02	磨石・敲石	7.5	7.7	7.4	596	安山岩
213	塚原遺跡	S-03	スクレイパー	4.0	5.5	1.1	34	安山岩
217	塚原遺跡	S-04	磨石・敲石	(6.7)	(8.9)	(5.9)	565	安山岩
218	塚原遺跡	P2	磨石・敲石	(5.2)	(6.3)	(5.5)	276	安山岩
232	塚原遺跡	P28	細石刃	2.4	1.1	0.1	1g以下	黒曜石

第4表 出土遺物観察表(鉄器)

図版番号	遺跡名	出土地点	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
359	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 奥屍床	馬具 円環帯	13.5	6.9	鉄棒径 1.0	98.0	
360	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 左屍床	馬具 部位不明	(1.9)	(1.8)	鉄棒径 0.7	3.0	
361	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 奥屍床	馬具 部位不明	(1.9)	(2.0)	鉄棒径 0.7	3.0	
362	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 中央通路部	刀子	10.5	1.9	1.0	12.0	一部木質付着
363	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 左屍床	鉄鏃	9.8	2.8	0.4	22.0	茎部径 0.6cm
364	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 左屍床	鉄鏃	10.8	3.4	0.5	27.0	茎部径 0.3~0.8cm
365	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 左屍床	鉄鏃	8.6	2.7	0.6	16.0	茎部径 1.0cm
366	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 右屍床	耳環	3.2	2.8	1.0	19.0	
367	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 左屍床	耳環	3.2	2.8	1.0	21.0	
368	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 中央通路部	耳環	2.7	2.6	0.9	10.0	
369	富尾原横穴墓群	16号横穴墓 中央通路部	耳環	2.7	2.5	0.8	9.0	

報告書抄録

ふりがな	たまなしいいせきちようさほうこくしょ		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査理由
書名	玉名市内遺跡調査報告書Ⅶ	市町村	遺跡番号						
副書名	平成21年度の調査								
巻次									
シリーズ名	玉名市文化財調査報告								
シリーズ番号	第24集								
編著者名	田中康雄								
編集機関	玉名市教育委員会								
所在地	〒869-0292 熊本県玉名市岱明町野口2129								
発行年月日	平成23年3月31日								
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査理由	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号						
市道立願寺横町遺跡予定地	玉名市 高瀬	43206	—	32° 55' 53"	130° 55' 53"			道路	
開野内原遺跡A地点	玉名市 中坂門田	43206		32° 54' 24"	130° 36' 58"			土砂採取	
年の神遺跡	玉名市 岱明町野口	43208		32° 55' 18"	130° 31' 31"			道路	
市道境川山田様予定地	玉名市 山田	43206	—	32° 56' 14"	130° 32' 18"			道路	
開野内原遺跡B地点	玉名市 中坂門田	43206		32° 54' 25"	130° 36' 48"			上水道施設	
新町遺跡	玉名市 大浜町	43208		32° 54' 10"	130° 32' 40"			専用住宅	
上小田宮の前遺跡	玉名市 上小田	43206		32° 57' 14"	130° 35' 17"			福祉施設	
塚原遺跡	玉名市 岱明町野口	43206		32° 55' 22"	130° 31' 53"			道路	
濱給西遺跡	玉名市 岱明町野口	43206		32° 55' 34"	130° 32' 01"				
大原遺跡	玉名市 岱明町野口	43206		32° 55' 39"	130° 32' 05"				
包蔵地外	玉名市 岱明町野口	43206	—	32° 55' 28"	130° 31' 57"				
岩崎原遺跡A地点	玉名市 岩崎	43206		32° 56' 01"	130° 33' 17"	平成21年4月1日		学生寮	
鏡池下遺跡	玉名市 鏡池	43206		32° 56' 12"	130° 31' 44"	～		道路	
岩崎原遺跡B地点	玉名市 岱明町野口	43206		32° 55' 24"	130° 31' 59"	平成22年3月31日		福祉施設	
岩崎原遺跡C地点	玉名市 岩崎	43206		32° 56' 09"	130° 33' 20"			専用住宅	
来広開堤防跡築接点	玉名市 大浜町大衆	43361	—	32° 52' 16"	130° 32' 04"			河川渡渉	
横柱・説明	玉名市 横島町共栄	43206	—						
鬼原山千人塚	玉名市 岱明町扇崎	43206		32° 55' 01"	130° 29' 24"			横柱・説明	
松東遺跡	玉名市 立願寺	43206		32° 56' 41"	130° 33' 07"			店舗	
宮原土井の内遺跡	玉名市 宮原	43208		32° 54' 13"	130° 34' 33"			農地造成	
市道境川上郷橋予定地	玉名市 溝上	43206	—	32° 57' 52"	130° 35' 32"			道路	
朝人林均宮墓	玉名市 天水町野田見	43206		32° 52' 35"	130° 35' 15"			保存目的	
高瀬原横穴墓群(16号横穴墓)	玉名市 富尾	43208		32° 56' 44"	130° 33' 35"			自然遺構	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
年の神遺跡	集落・墓地	弥生時代中期	—	竊棺片					
大原遺跡	集落	弥生時代中・後期	住居跡・溝・土坑・ピット	弥生土器					
鏡池下遺跡	集落	弥生時代中・後期	住居跡・溝・土坑・ピット	弥生土器					
塚原遺跡	集落	弥生時代中・後期	住居跡・溝・土坑・ピット	弥生土器					
宮原土井の内遺跡	城館跡	中世	溝・土坑・ピット	青磁・土師器					
高瀬原横穴墓群(16号横穴墓)	墓地	古墳時代後期	横穴墓	副葬品(耳環・馬具・鉄釧)					

玉名市文化財調査報告 第24集

玉名市内遺跡調査報告書Ⅶ

平成21年度の調査

平成23年3月30日印刷

平成23年3月31日発行

編集発行 玉名市教育委員会

〒862-0292 玉名市岱明町野口2129
TEL. 0968-57-4429 FAX 0968-57-4442

印刷 株式会社 有明印刷
〒865-0022 玉名市寺田123-1
TEL. 0968-73-2055 FAX 0968-72-3504

